

令和5年度全国学力・学習状況調査

結果分析

寒川町教育委員会

令和5年12月

目次

はじめに 寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～	・・・ 2
1 子どもたちを支える環境づくり	
◇基礎・基本的な生活習慣について	・・・ 6
◇主体的な学習を支える基盤づくりについて	・・・ 12
2 資質・能力を育むための授業づくり	
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～	
◇資質・能力を育むために	・・・ 18
・調査結果 国語	
・調査結果 算数・数学	
・調査結果 英語	
◇「考え」を発信する場や機会をもつために	・・・ 32
3 今後に向けて	
～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～	
◇家庭で育まれていること、これからも育てほしいこと	・・・ 47
◇学校で育まれていること、これからも育ていくこと	・・・ 50
◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、	
<u>これからも育ていきたいこと</u>	・・・ 52
◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を	・・・ 52

寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。令和 5 年度の調査の目的は次のとおりです。

【調査の目的】¹

- 学力や学習状況を把握して、分析すること
- 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること

これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】²

- 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であること
- 序列化につながる取組が必要であること

この部分について、令和 5 年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領でも、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】

- 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること
- 学校における教育活動の一側面であること
- 序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれないよう配慮することが求められています。

* 「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以降「実施要領」と表記する。

1 【調査の目的】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（令和 5 年度 実施要領より）

2 【調査結果の取扱いに関する配慮事項】 調査結果の公表にあたっては、本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であることなどを明示するとともに、序列化につながる取組が必要。（平成 25 年度 実施要領より）

寒川町教育委員会では令和5年度についてもこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】

- 序列化や過度な競争が生じないように配慮します。
(調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません。)
- 学力の特定の一部、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
(他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。)
- 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。
- 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。
- 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭と共に学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

- 学校での教育実践と調査結果との関わりについて検証していきます。
- 「これまでに取り組んで『強み』になったこと」を成果としています。
- 「これまでも取り組んできて、これからも取り組んでいきたいこと・より重点的に今後取り組みたいこと」を課題とします。
- 寒川町の児童・生徒やその保護者の取組、また教職員の教育実践の方向性について、学習指導要領やこれから求められる力と関連付けていきます。

～学びの主角は子ども～

小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から全面実施された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善³が求められ、教員が「何を教えるか」から児童・生徒を主語にした「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に視点が変わりました。つまり、児童・生徒が学びの主角となり学習を進めることが求められています。

児童・生徒が主体的な学びを追究していくためには、子ども自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、課題を見出し、見通しを持って粘り強く授業に取り組めるような教師の工夫や努力が必要です。また、対話的な学びを深めるためには、自分の考えを他者に伝えたい・話したいと思わせる場の設定や、有意義な話し合いをするための教師の働きかけ、子どもたちが行っていることの価値づけが大事となってきます。そして、1人1台端末等のICT機器を活用し、情報を収集、思考の整理、意見の発信、他者との意見共有等、児童・生徒が有効に活用できる場面での使用が求められています。さらに、深い学びを追究していくためには、教科特有の見方・考え方を働かせて、教科の本質に迫る授業を構想する必要があります。このような日々の授業の積み重ねによって、子どもたちに、「生きる力」⁴を育むことができます。

寒川町では、学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の実現に向けて取り組んでいます。この取組の成果の一部は、児童質問紙調査や生徒質問紙調査の結果に表れています。

これまでの寒川町の取組では、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、着実に積み上げられてきています。

全国学力・学習状況調査の結果を学力の一部として真摯に受け止め、学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために一緒になって取り組んでいきたいと考えております。

3（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善）子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進する必要がある。

（学習指導要領解説 総則編より）

4【生きる力とは】今回の改訂においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童・生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。

（学習指導要領解説 総則編より）

1 子どもたちを支える環境づくり

～学校と保護者との協力～

◇基礎・基本的な生活習慣について

- ・基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます
- ・計画的な学習によって、学びの定着が図られます
- ・課題に対して粘り強く取り組む

◇主体的な学習を支える基盤づくりについて

- ・主体的な学習を支える基盤づくり
- ・資質・能力の育成に向けて ICT を効果的に活用する

基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めま

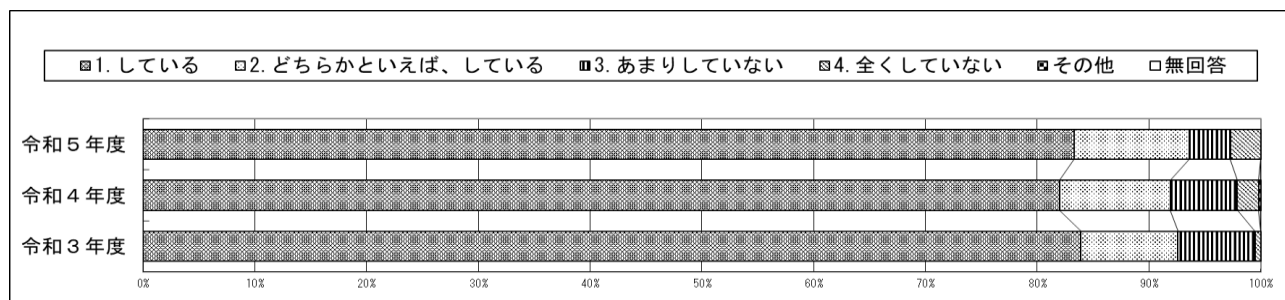
子どもたちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。早寝・早起きを中心とした生活リズムを安定させるためには、家庭の支えが大きく関わってきます。家庭での協力を得て、児童・生徒が規則正しい生活を送ることができ、学校での学習においても集中力を発揮し、取り組むことができます。

以下は児童・生徒質問紙調査での、児童・生徒の基本的な生活習慣についての項目です。

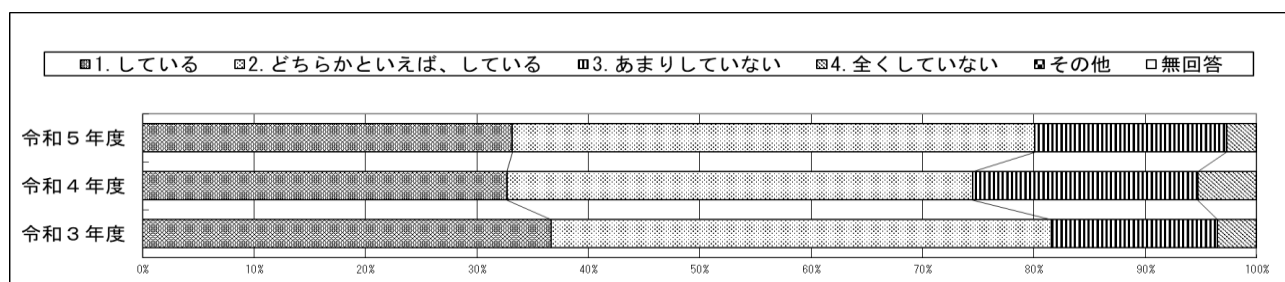
【児童・生徒質問紙（１）「朝食を毎日食べていますか」】、【児童・生徒質問紙（２）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」】、【児童・生徒質問紙（３）「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」】については、多くの子どもたちが、毎日しっかりと朝ごはんを食べ、決まった時刻に起きる規則正しい生活を送っていることがわかります。小学校では、朝食を食べている児童の割合、決まった時刻に起きている児童の割合は前年度と比べると増加しています。規則正しい生活を送ることが習慣化することにより、子どもたちは学校での授業においても、集中して取り組むことができます。一方、中学校では、朝食を食べている生徒の割合が減少していることが気になります。今後も注意して見ていくことが必要です。これからも、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に取り組んでいきます。

【小学校児童質問紙】

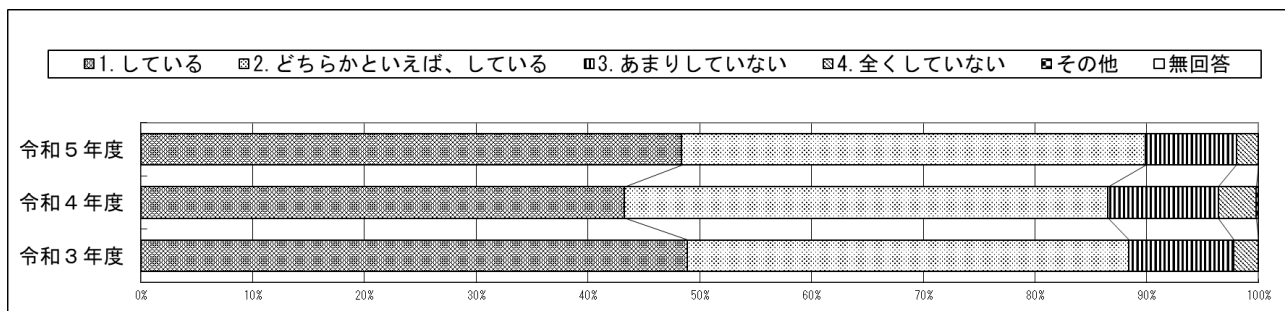
質問番号	質問事項										
(1)	朝食を毎日食べていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	83.3	10.3	3.7	2.7				93.6		0.0	0.0
令和4年度	82.0	9.9	6.0	1.9				91.9		0.2	0.0
令和3年度	83.9	8.7	6.9	0.5				92.6		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	33.2	46.9	17.2	2.7				80.1		0.0	0.0
令和4年度	32.7	41.8	20.2	5.3				74.5		0.0	0.0
令和3年度	36.7	44.9	14.9	3.5				81.6		0.0	0.0

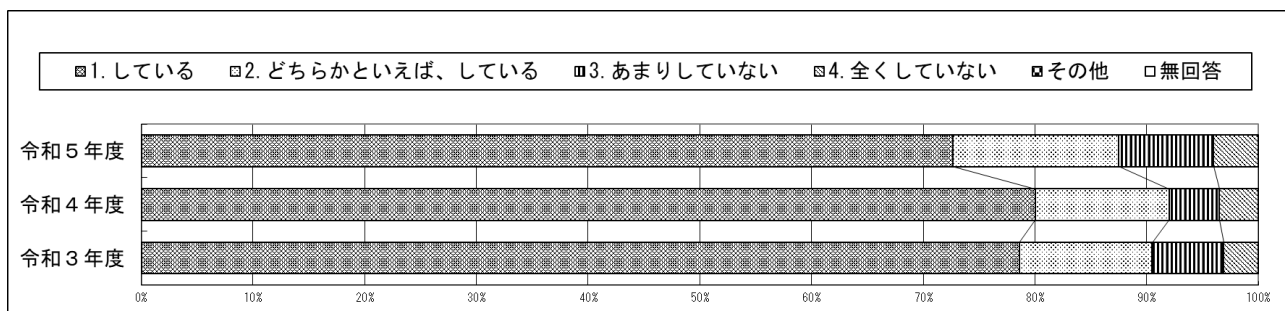


質問番号	質問事項										
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	48.4	41.5	8.1	2.0				89.9		0.0	0.0
令和4年度	43.3	43.3	9.9	3.4				86.6		0.2	0.0
令和3年度	48.9	39.5	9.4	2.2				88.4		0.0	0.0

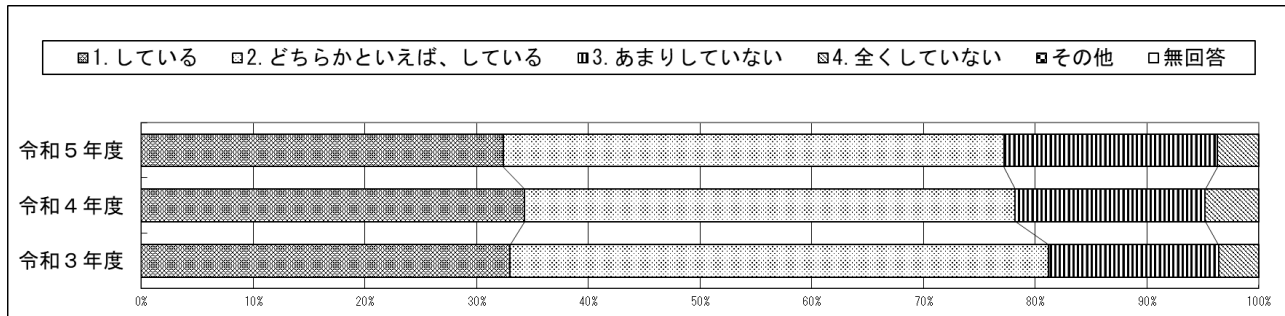


【中学校生徒質問紙】

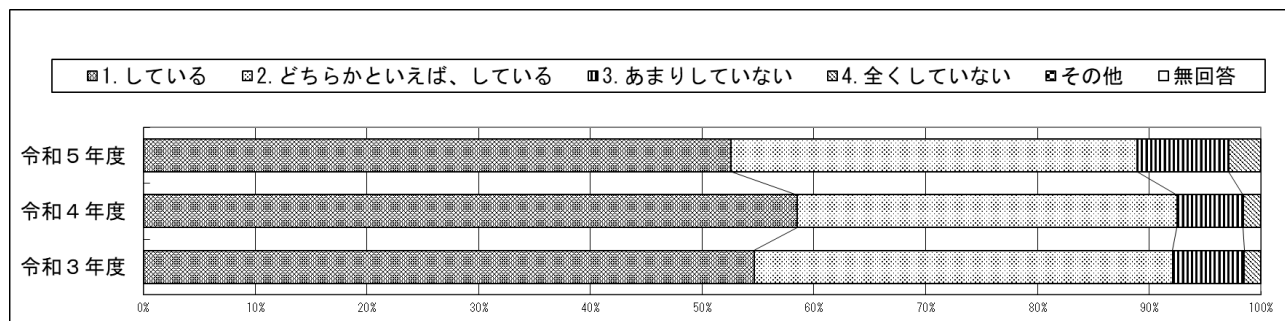
質問番号	質問事項										
(1)	朝食を毎日食べていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	72.7	14.9	8.5	4.0				87.6		0.0	0.0
令和4年度	80.1	12.0	4.5	3.5				92.1		0.0	0.0
令和3年度	78.6	11.9	6.4	3.1				90.5		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	32.4	44.8	19.1	3.7				77.2		0.0	0.0
令和4年度	34.3	43.9	17.0	4.8				78.2		0.0	0.0
令和3年度	33.0	48.2	15.2	3.6				81.2		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	52.5	36.3	8.2	2.9				88.8		0.0	0.0
令和4年度	58.5	34.0	5.9	1.6				92.5		0.0	0.0
令和3年度	54.6	37.4	6.4	1.5				92.0		0.0	0.0



計画的な学習によって、学びの定着が図られます

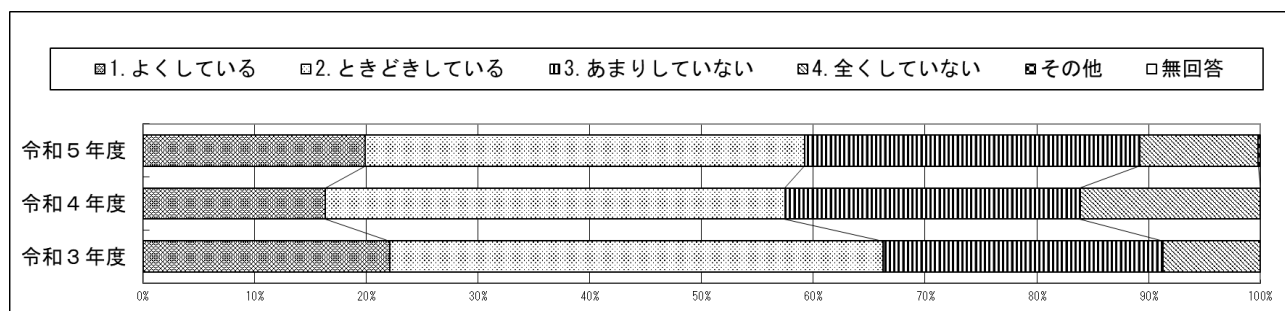
昨年度の調査結果においては、小学校・中学校共に計画的に家庭学習をしている児童・生徒が少なく、それに伴い家庭学習の時間が減っていました。

今年度、【児童質問紙(16)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」】から計画的に学習に取り組む児童の増加がやや見られ、学習習慣が定着している様子が伝わってきます。また、家庭学習の時間も増えていることは、強みとなっています。しかし、【生徒質問紙(16)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」】においては、昨年度より低い傾向が見られます。

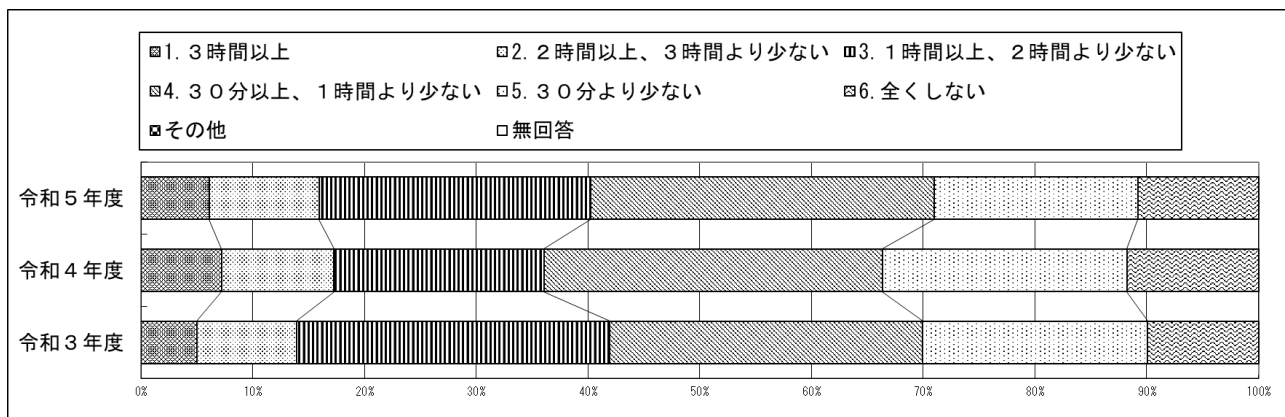
家庭において計画的に学習することで、学校で学んだことを習得することができ、また日々の積み重ねにより学習の定着が図られます。家庭で学習に取り組む習慣を身に付けることによって、学習習慣だけでなく、学習意欲にもつながります。学校から帰宅した後の時間の過ごし方について、今一度考える機会を家庭でもつことが大切です。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	19.9	39.3	30.0	10.6				59.2		0.2	0.0
令和4年度	16.3	41.1	26.4	16.1				57.4		0.0	0.0
令和3年度	22.1	44.2	25.1	8.7				66.3		0.0	0.0

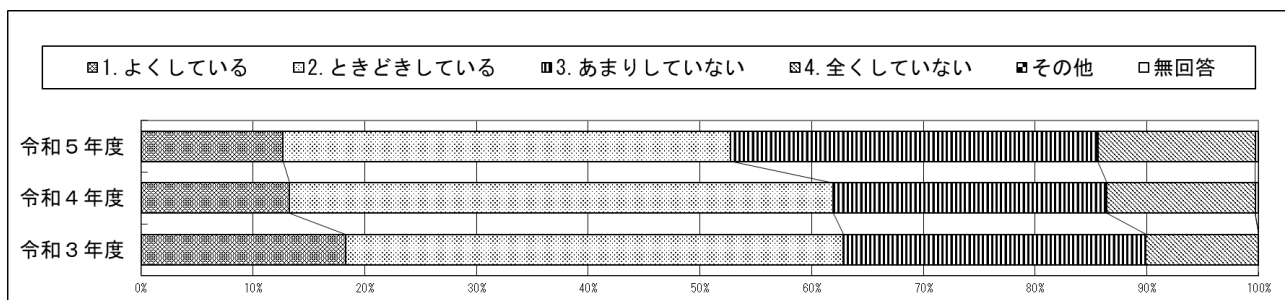


質問番号	質問事項										
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	(1+2+3)	9	その他	無回答
令和5年度	6.1	9.8	24.3	30.7	18.2	10.8		40.2		0.0	0.0
令和4年度	7.2	10.1	18.8	30.3	21.9	11.8		36.1		0.0	0.0
令和3年度	5.0	8.9	28.0	28.0	20.1	9.9		41.9		0.0	0.0

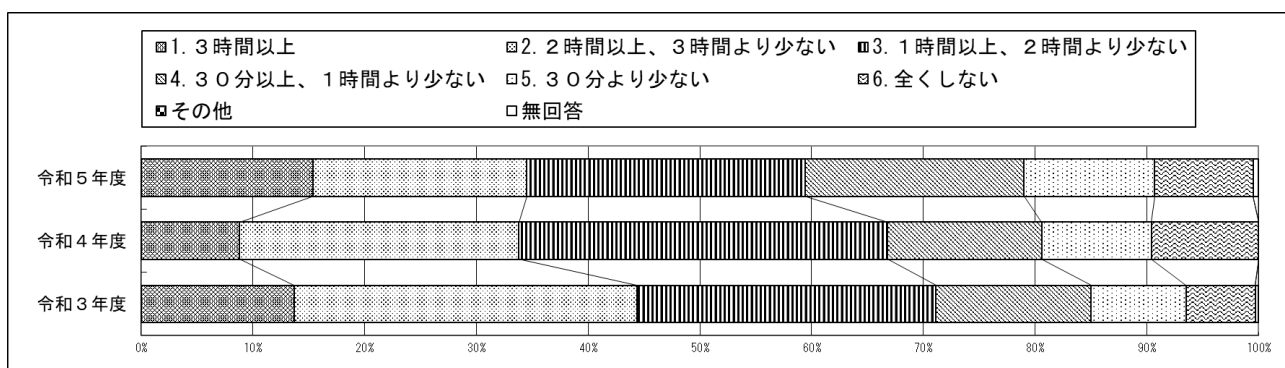


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	12.7	40.1	32.9	14.1				52.8		0.0	0.3
令和4年度	13.3	48.7	24.5	13.3				62.0		0.0	0.3
令和3年度	18.3	44.6	27.1	10.1				62.9		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	(1+2+3)	9	その他	無回答
令和5年度	15.4	19.1	24.9	19.6	11.7	8.8		59.4		0.0	0.5
令和4年度	8.8	25.0	33.0	13.8	9.8	9.6		66.8		0.0	0.0
令和3年度	13.7	30.7	26.8	13.9	8.5	6.2		71.2		0.0	0.3



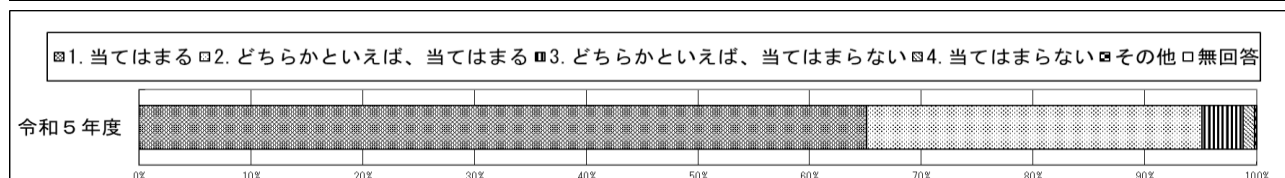
課題に対して粘り強く取り組む

【児童・生徒質問紙（6）「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」】という項目では、小学校は約95%、中学校は約89%の児童・生徒が分かるまで教えられていると感じています。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問の裏には、児童・生徒が課題に対して、分かるまで理解しようと粘り強く取り組んでいることが伺えます。理解するまでの過程については個人差があり、時間が必要な場合もあります。先生以外にも友だちや家族等に教えてもらったりICT機器を活用したりする等、様々な方法を活用しながら、個別最適な学びを行うことができるよう指導していきます。

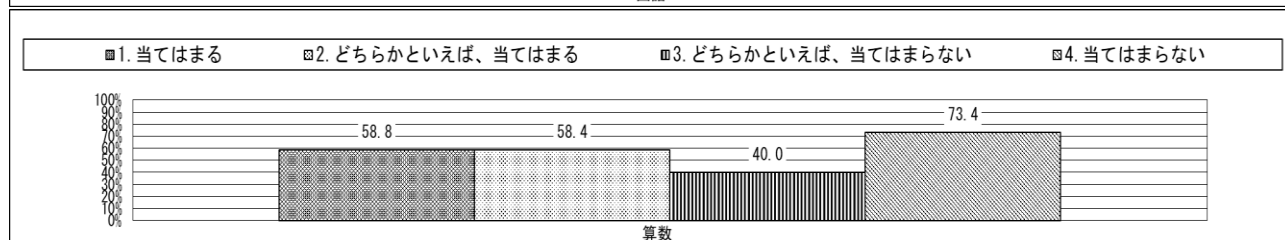
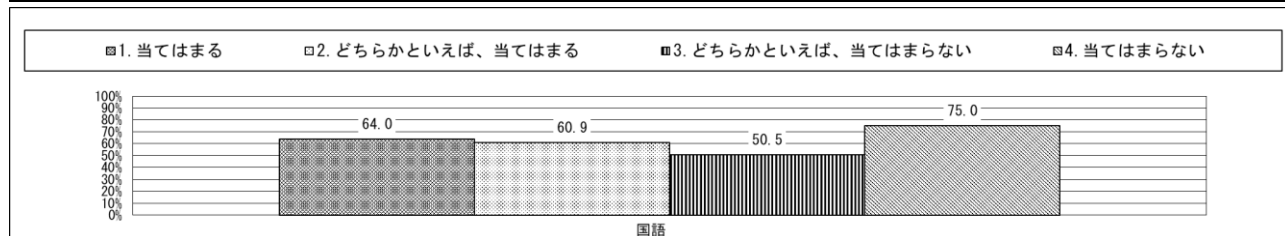
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	65.1	30.0	3.7	1.0				95.1		0.2	0.0



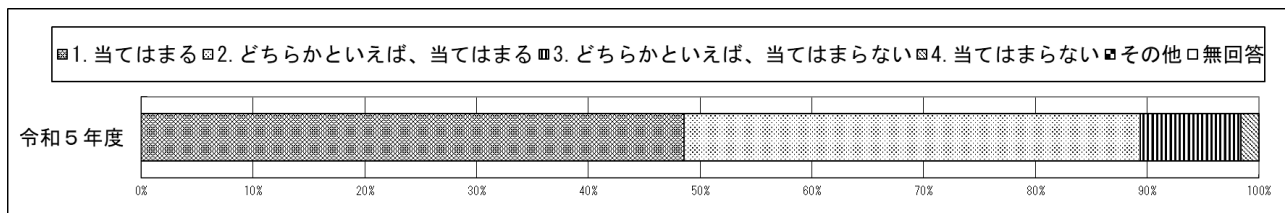
【クロス集計 小学校】

選択肢	児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	算数 (16問)
1 当てはまる	264	65.0	64.0	58.8
2 どちらかといえば、当てはまる	122	30.0	60.9	58.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	15	3.7	50.5	40.0
4 当てはまらない	4	1.0	75.0	73.4
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	1	0.2	—	—
無回答	0	0.0	—	—



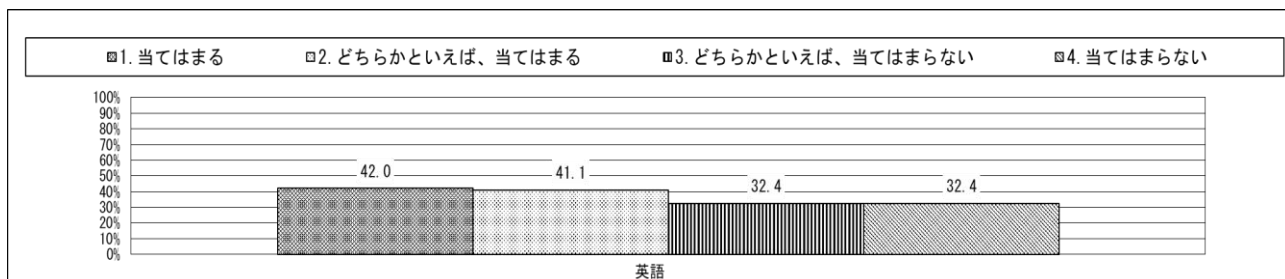
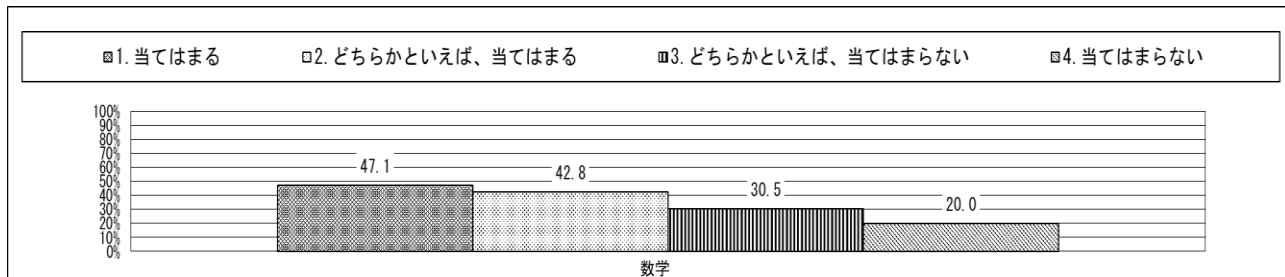
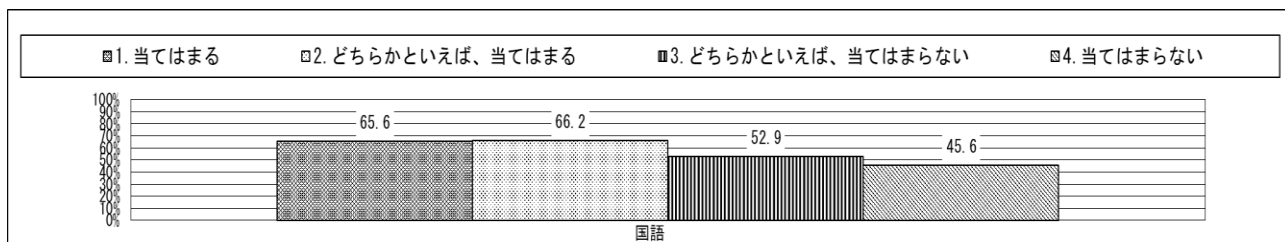
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	48.5	40.8	9.0	1.6				89.3		0.0	0.0



【クロス集計 中学校】

選択肢	生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
			国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1 当てはまる	182	48.8	65.6	47.1	42.0
2 どちらかといえば、当てはまる	152	40.8	66.2	42.8	41.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	33	8.8	52.9	30.5	32.4
4 当てはまらない	6	1.6	45.6	20.0	32.4
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)			0	0.0	—
無回答			0	0.0	—



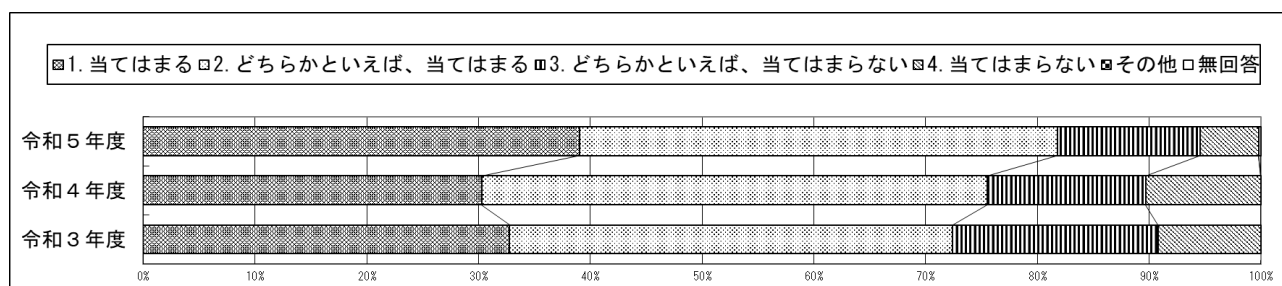
主体的な学習を支える基盤づくり

児童・生徒が相互によさを認め合い、励まし合い、支え合う人間関係は、学級・学校の基盤であり、生きる原動力となります。児童・生徒が充実した学校生活を送るためには、「自分のことが好き」と思う気持ち（自尊感情）を育み、学級・学校を構成する一員であるという所属感を持たせ、周りから認められているという充実感を味わわせるようにすることが必要です。

【児童・生徒質問紙(4)「自分には、よいところがあると思いますか】では、多くの児童・生徒がよいところがあると回答しており、自尊感情が育まれるような学級・学校の中での学校生活を送ることができる児童・生徒が増えてきています。また、【児童・生徒質問紙(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか】【児童・生徒質問紙(11)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか】においても高い割合で当てはまると回答しています。児童・生徒自身が互いのよさを認め合い、支え合う人間関係の構築が進んでいる結果の表れであり、これまで寒川町が各学級・学校において積極的に取り組んできた道徳教育や人権教育をはじめとする様々な教育活動の成果とも言えます。この強みを生かして、さらに学びの場をよい環境にできるよう取組を継続していくことが大切です。

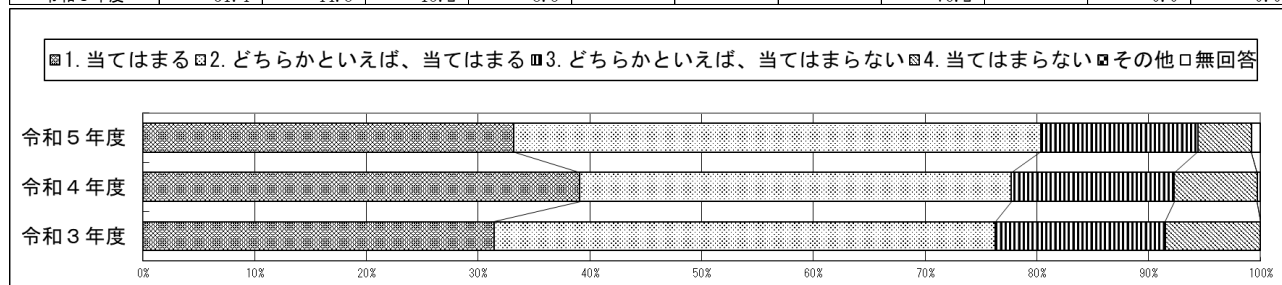
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(4)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	39.1	42.8	12.8	5.2				81.9		0.0	0.2
令和4年度	30.3	45.2	14.2	10.3				75.5		0.0	0.0
令和3年度	32.8	39.7	18.4	9.2				72.5		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

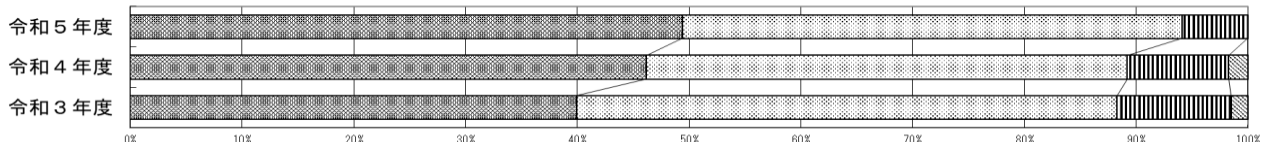
質問番号	質問事項										
(4)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	33.2	47.2	14.1	4.8				80.4		0.0	0.8
令和4年度	39.1	38.6	14.6	7.4				77.7		0.0	0.3
令和3年度	31.4	44.8	15.2	8.5				76.2		0.0	0.0



【小学校児童質問紙】

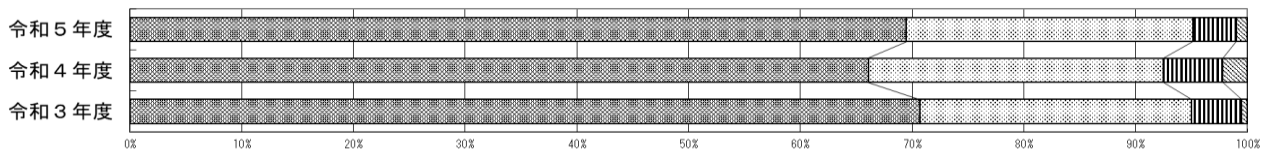
質問番号	質問事項										
(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	49.4	44.7	5.9	0.0				94.1		0.0	0.0
令和4年度	46.2	43.0	9.1	1.7				89.2		0.0	0.0
令和3年度	40.0	48.4	10.2	1.5				88.4		0.0	0.0

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



質問番号	質問事項										
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	69.5	25.6	3.9	1.0				95.1		0.0	0.0
令和4年度	66.1	26.4	5.3	2.2				92.5		0.0	0.0
令和3年度	70.7	24.3	4.5	0.5				95.0		0.0	0.0

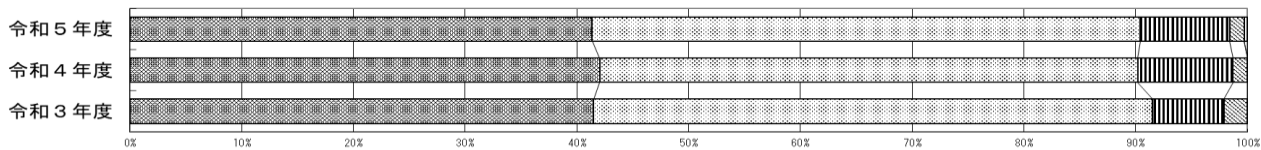
□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



【中学校生徒質問紙】

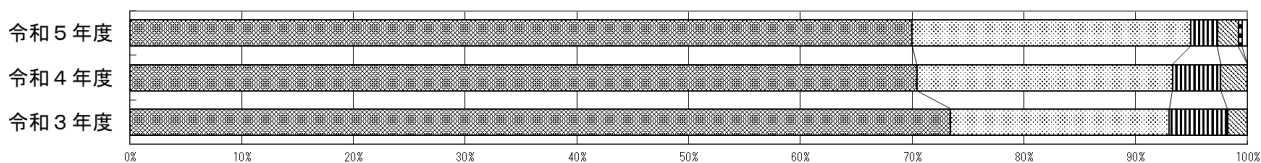
質問番号	質問事項										
(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	41.4	49.1	8.0	1.3				90.5		0.0	0.3
令和4年度	42.0	48.1	8.5	1.3				90.1		0.0	0.0
令和3年度	41.5	50.0	6.4	2.1				91.5		0.0	0.0

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



質問番号	質問事項										
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	70.0	24.9	2.4	1.9				94.9		0.3	0.5
令和4年度	70.5	22.9	4.3	2.4				93.4		0.0	0.0
令和3年度	73.5	19.6	5.2	1.8				93.1		0.0	0.0

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



また、【児童・生徒質問紙（13）「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」】では、楽しいと感じた児童・生徒が増えてきている傾向が見られます。

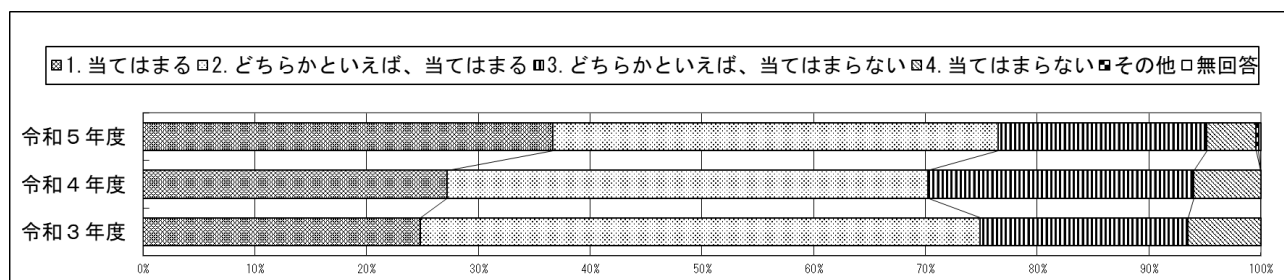
授業の中で、児童・生徒は自分の考えを发表或し、自分の意見とは異なる他者の意見を聞いたりすることで、学びがより広がりさらに深まっています。

1人1台のタブレット端末を活用した授業の展開により、友達の意見を学級全体で共有することができる表れが伺え、学習指導要領にもあります、「主体的・対話的で深い学び」を行うためには、まずは児童・生徒が自分の意見をもつこと、そして自分の意見を伝えることができる学級の環境が大切です。

今後も、学校生活の基盤となる、学級づくりに丁寧に取り組んでいきます。

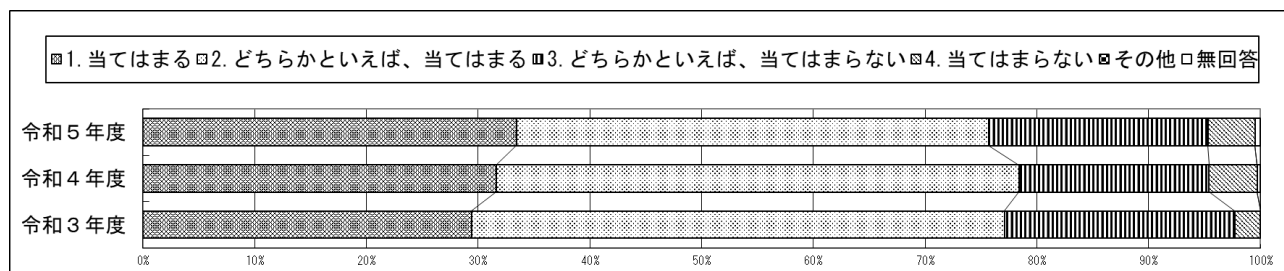
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	36.6	39.8	18.7	4.4				76.4		0.2	0.2
令和4年度	27.2	43.0	23.8	6.0				70.2		0.0	0.0
令和3年度	24.8	50.1	18.6	6.5				74.9		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	33.4	42.2	19.6	4.2				75.6		0.0	0.5
令和4年度	31.6	46.8	17.0	4.3				78.4		0.0	0.3
令和3年度	29.4	47.7	20.6	2.3				77.1		0.0	0.0



資質・能力の育成に向けてICT機器を効果的に活用する

小学校、中学校共に、【児童質問紙（29）・生徒質問紙（33）「5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか】、【児童質問紙（30）・生徒質問紙（34）「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか】から、ICT機器を使用している頻度は高く、中学校においてPC・タブレットなどのICT機器を使用している程度は全国と比較しても約30%高くなっています。このことは、GIGAスクール構想の実現に向けて環境整備が進み、学校における授業改善も着実に進んできていることを示しています。

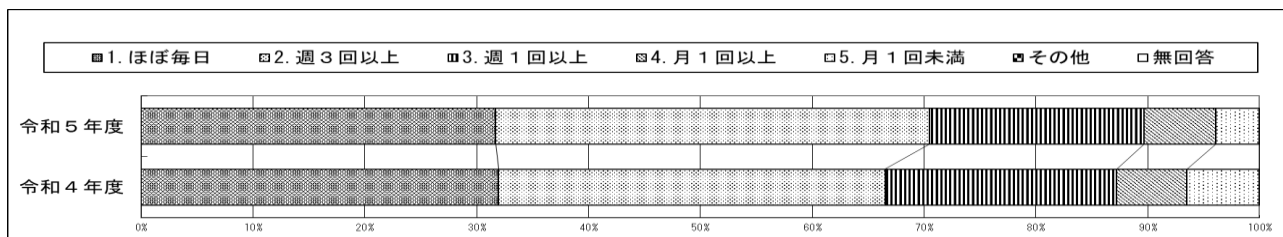
学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに情報活用能力を位置づけ、各教科におけるICT機器を活用した学習活動の一層の充実を目指しています。

しかし、ICT機器の活用は、授業改善の一手段であるため、「ICT機器を使うこと」が目的ではなく、ICT機器の特性や強みを生かして、授業のねらいを達成させるために活用する「学びの支援ツール」という視点をもつことが大切です。

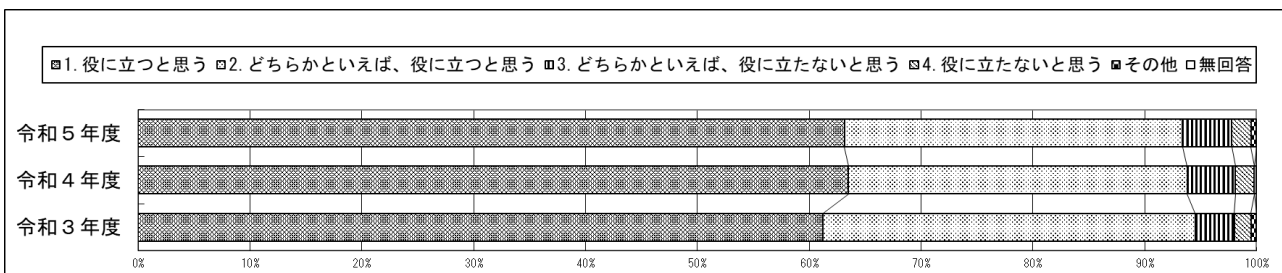
ICTを使って意見を共有した後は、もう一度自分自身の考えを深める時間を取り、再度考えをまとめて書くことで、深い学びとなります。また、深い学びを支える土台となるのは基礎的・基本的な学びの習得です。「漢字を書く」「計算問題を解く」などの基礎基本の土台があってこそ活用の力が積み重なっていきます。今後も、授業の中でより一層効果的にICT機器を活用していく必要があります。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(29)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	31.7	38.8	19.2	6.4	3.9			70.5		0.0	0.0
令和4年度	32.0	34.6	20.7	6.3	6.5			66.6		0.0	0.0

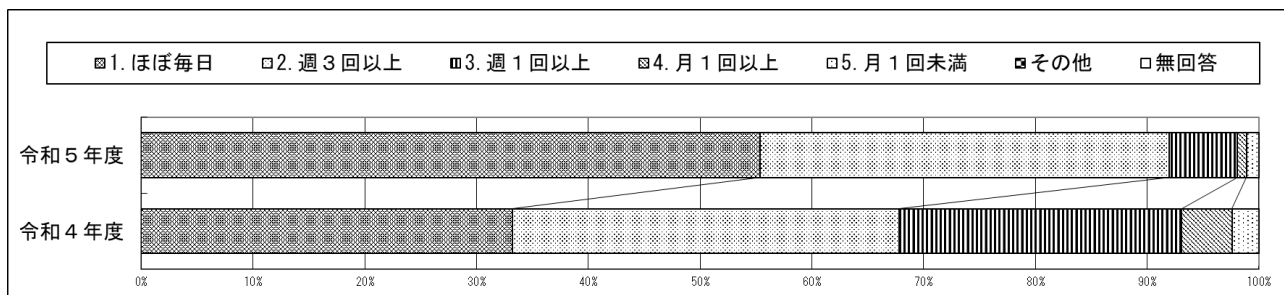


質問番号	質問事項										
(30)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	役に立つ(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	63.1	30.2	4.4	1.7				93.3		0.5	0.0
令和4年度	63.5	30.3	4.3	1.7				93.8		0.0	0.2
令和3年度	61.3	33.3	3.5	1.5				94.6		0.5	0.0

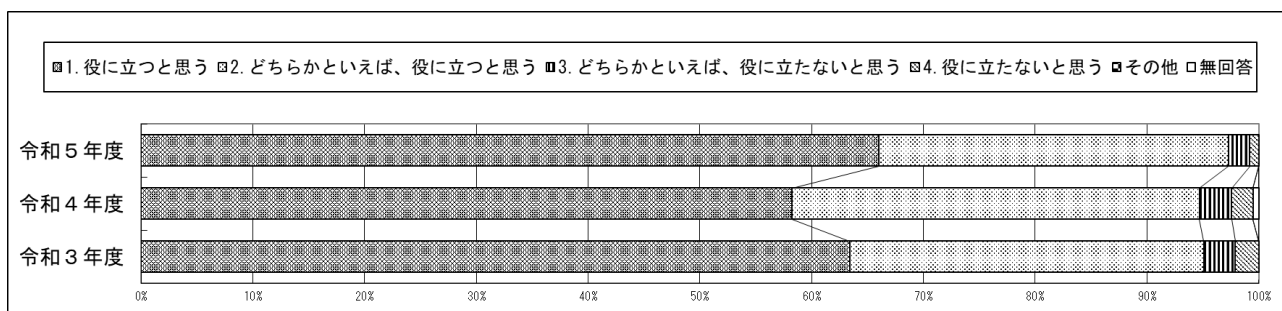


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(33)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	55.4	36.6	6.1	0.8	1.1			92.0		0.0	0.0
令和4年度	33.2	34.6	25.3	4.5	2.4			67.8		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(34)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	役に立つ(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	66.0	31.3	1.9	0.8				97.3		0.0	0.0
令和4年度	58.2	36.4	2.9	1.9				94.6		0.0	0.5
令和3年度	63.4	31.7	2.8	2.1				95.1		0.0	0.0



2 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇資質・能力を育むために

・調査結果 小学校 国語

中学校 国語

・調査結果 小学校 算数

中学校 数学

・調査結果 中学校 英語

◇「考え」を発信する場や機会をもつために

資質・能力を育むために ～令和の日本型学校教育に向けて～

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領⁵では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育てていく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和3年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育⁶』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしてのICTを基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

6 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があるためには、新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で、我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

このようなことから、学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度までの、A問題【主として知識】、B問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成31年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」はそれぞれ分かれて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら資質・能力が育成されていきます。学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能をいかに活用させて「生きて働く知識・技能」を培うかが求められています。

調査結果 小学校 国語

令和5年度 調査結果 小学校【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体			14	63	-4.2	66.0	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	66.4	-4.8	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.5	-1.9	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	-4.5	70.4	72.6
		B 書くこと	1	22.2	-4.5	25.6	26.7
		C 読むこと	3	65.5	-5.7	70.4	71.2

令和4年度 調査結果 小学校【国語】

分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体			14	55	-10.6	65	65.6
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	53.2	-15.8	65.6	69
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	68.6	-9.3	73.2	77.9
	思考力、判断 力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	62.1	-4.1	66.3	66.2
		B 書くこと	2	39.0	-9.5	47.9	48.5
		C 読むこと	4	58.4	-8.2	69.5	66.6

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

調査結果 中学校 国語

令和5年度 調査結果 中学校【国語】							
分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）	
			平均正答率	全国との差			
全体		15	64	-5.8	70	69.8	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	2	53.8	-13.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	58.7	-4.7	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	-3.7	71.7	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	-2.3	82.5	82.2
		B 書くこと	2	57.8	-5.4	64.6	63.2
		C 読むこと	4	59.3	-4.4	64.2	63.7

令和4年度 調査結果 中学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
			平均正答率	全国との差		
全体		14	64	-5.0	69	69.0
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	6	66.2	-6.0	72.3	72.2
		1	36.6	-9.9	43.7	46.5
		3	68.0	-2.2	70.5	70.2
	A 話すこと・聞くこと	3	57.9	-6.0	65.1	63.9
		1	36.6	-9.9	43.7	46.5
		2	65.8	-2.1	69.9	67.9

調査結果 小学校 算数

令和5年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
			平均正答率	全国との差		
全体		16	58	-4.5	63.0	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.5	-5.8	67.1	67.3
	B 図形	4	46.1	-2.1	50.0	48.2
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	66.6	-4.3	72.3	70.9
	D データの活用	3	59.6	-5.9	65.2	65.5

令和4年度 調査結果 小学校 【算数】

分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	55	-8.2	64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.4	-8.4	69.4	69.8
	B 図形	4	57.6	-6.4	64.9	64.0
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	43.7	-7.6	53.3	51.3
	D データの活用	3	58.7	-10.0	69.5	68.7

調査結果 中学校 数学

令和5年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		15	43	-8.0	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	53.5	-9.5	65.2	63.0
	B 図形	3	24.4	-8.8	36.1	33.2
	C 関数	4	45.3	-5.9	51.7	51.2
	D データの活用	3	43.6	-4.9	47.4	48.5

令和4年度 調査結果 中学校 【数学】

分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	45	-6.4	53	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	46.4	-11.0	57.9	57.4
	B 図形	3	37.9	-5.7	45.6	43.6
	C 関数	3	41.9	-1.7	46.0	43.6
	D データの活用	3	53.2	-3.9	57.8	57.1

調査結果 中学校 英語

令和5年度 調査結果 中学校【英語】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		17	41	-4.6	50	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	53.8	-4.6	62.5	58.4
	(2) 読むこと	6	47.2	-4.0	55.7	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0				
	(4) 話すこと [発表]	0				
	(5) 書くこと	5	16.9	-6.5	29.5	23.4

平成31年度 調査結果 中学校【英語】

分類	区分	対象設 問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		21	53	-3.0	59	56.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	66.1	-1.8	70.1	67.9
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	52.0	-3.8	57.4	55.8
	書くこと	8	43.0	-2.8	49.7	45.8

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

【小学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			○	22.2	-4.5	7.4

【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	○			46.2	-8.1	1.1
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			○	69.4	-2.7	9.4

問題 小学校 1 二

【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く

この問題の趣旨は、「グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」ことです。伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを考えることが大切です。本設問では、5枚のカードの情報と情報との関係を捉えて整理し、目的に応じて必要な情報を選び出す必要があります。さらに、グラフから「学校の田んぼの雑草の量」の変化に着目し、「雑草の量が増え続けている」という学校の米作りの問題点をおさえた上で、その解決方法についての自分の考えを述べる必要があります。誤答の中には、グラフと【カード④】のいずれかの情報しか取り上げていないために条件を満たしていない解答や、グラフから「農家も雑草が生えている」等、農家に着目し、学校の米作りの問題点を書いていない解答がありました。何について問われているのかをはっきりさせ、情報と情報との関係を整理することが必要です。

問題 中学校 3 一

レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する

問題 中学校 3 四

『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く

問題番号3一の趣旨は、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」こと、問題番号3四の趣旨は「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことです。この問題では具体と抽象など、ある情報と他の情報との関係について理解する必要があります。具体と抽象の関係を理解するには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要です。例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを身の回りの事例と結び付けながら捉えるよう、事例を取り上げて指導をすることが大切です。

また、自分の考えが伝わる文章にするためには、伝えたい自分の考えを精選し明らかにすること、考えとのつながりが明確な具体例を選択する等、考えを支える根拠となる具体例を選ぶこと、示した具体例からなぜその考えが導き出せるのかが分かるように、自分の考えと根拠を書くことが必要です。

これまで「書くこと」が課題として挙げられてきましたが、令和5年度においては、小学校、中学校において改善が見られ、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に対して答えることができる児童・生徒が増えてきていることが伺えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、理由や事例を挙げて自分の考えをまとめ

て書くこととなります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、「自分の考えをもつ」こと、そして「書く」という流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していくことです。さらに、なぜそうなのか、根拠をはっきりとさせておくことも必要です。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、「自分の考えをもつ」ということが大事になってきます。また、子どもたちの「考え」の基盤は、自らの生活経験が大部分を占めます。学校教育活動をはじめとして、家庭や地域における体験活動や生活経験を大切に、児童・生徒が自分の考えや世界観を広げられるようにすることが大事となります。

さらに、「書く」ためには、「何が書かれているか」という内容を整理して読み取るとともに、「どのように書かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切です。物語全体を捉えられるようにし、着目した複数の叙述を基に考えたことを共有し交流する場面を設定することを通して、理解し想像する力をつけていくことが大切です。

◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかをみる		○		74.4	-6.4	1.7
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかをみる	○			66.7	-3.6	1.5
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかを判断できるかをみる			○	48.5	-8.2	5.9
3 (3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかをみる		○		67.0	-5.4	3.0
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかをみる	○			42.6	-5.0	4.7
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかをみる		○		69.5	-6.2	4.9

【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	○			37.6	-8.5	0.0
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる		○		76.0	-4.5	4.5
6 (1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる		○		85.3	-3.6	2.1
6 (2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる			○	41.6	-17.2	9.3
6 (3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる			○	26.9	-14.0	25.3

問題 小学校3 (2)

3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する

この問題の趣旨は、「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」ことです。1人分のファイルの長さを求め、その23人分の長さを求める求め方 $(1.4 + 1.6 + 2) \times 23 = 115$ や3種類のファイルごとに23人分の長さを求め、それらの合計を求める求め方 $1.4 \times 23 + 1.6 \times 23 + 2 \times 23 = 115$ を式や言葉を用いて記述する必要があります。ただ単に式と計算だけではなく、式の表す意味を考え、自分の考えを言葉にしなければなりません。また、計算して出てきた結果から、120cmの棚に並べることができるかどうかという条件の判断を行う必要もあります。基礎となる小数の加法や乗法の計算方法を繰り返し練習するだけではなく、日常生活の場面などから条件を設定した問題の練習や自分の立てた式の意味や考え方の説明をする機会をもつことが大切です。

問題 中学校 1

−5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ

この問題の趣旨は、「自然数の意味を理解している」ことです。この問題では数の集合を捉え直す必要があります。小学校算数においては、整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学では、負の整数を加え、整数を正の整数（自然数）、0、負の整数と捉え直し、整数の意味について理解を深めることが大切です。

問題 中学校 6 (2)

はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる

この問題の趣旨は、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」ことです。ここでは、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。この問題を解くためには、計算結果はいつでも3の倍数になるならば「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しを持って、式を変形できることが大切です。計算結果は、 $3n + 6$ となり、 $3(n + 2)$ の形に式を変形し、 $n + 2$ は整数であるということを説明することで、計算結果はいつでも3の倍数になると証明することができます。

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに問題の条件を変えるなどして、発展的に考察することが大切です。そして、発展的に考察するためには、基本的な学習内容の定着が必要となってきます。

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、)統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数科・数学科の授業においても「考えをもつことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要性があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって、算数科・数学科についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。そして、自分の考えをもつための道具として、基本的な学習内容の定着は大切です。

◇ 英語について

【中学校 英語】

今年度は、「聞くこと」について分析していきます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			82.4	3.4	0.0
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			54.9	-9.5	0.3
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			39.5	-10.3	0.0
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○			58.9	-2.2	0.3
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○			40.3	-0.9	0.3
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	○			46.9	-7.9	1.1

問題 中学校1 (3)

買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する

この問題の趣旨は「情報を正確に聞き取ることができる」ことです。

A: How about this bag with some stars on it? It's very popular.

B: It's nice! I'll take the bigger one.

本設問では、会話の中で、some stars on it でたくさんの星と聞き取れますが、the bigger one という情報を「より大きな星が1つあるバッグ」という誤った意味で聞き取ってしまうと考えられます。この one は代名詞 one の用法であり、1つのという意味ではありません。

学習指導においては、外国人指導者（FLT）やデジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動や、意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動を行うことが大切です。また、文章と文章の関係の中で、代名詞が指しているものは何かとはっきりさせていくことで、より正確な理解につながります。

問題 中学校 4

水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する

この問題の趣旨は「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる」ことです。

1～4の選択肢はすべて本文で読まれています。

1は話し手が説明する話題（There isn't enough water in Singapore.）

2は説明全体の主題（…doing something to save water is important.）

3・4は話題の例示（3: I take showers for only five minutes each time.

4: One of my friends uses rain water for the plants in his room.）

という関係性を捉えることに課題があると考えられます。

説明を聞いて要点を捉えることができるようにするためには、話題を把握した上で、主題とその具体例といった内容の構成を意識して情報を聞き取っていくことが重要であり、さらに聞き取った情報を比較し、話し手が最も伝えたいことを捉えることが大切です。また、学習指導に当たっては、内容の構成や内容の構成や要点を捉えるための手掛かりとなる語句や表現に着目することができるように指導していくことが必要です。

◇ 各教科における記述式問題について

国語科、算数科・数学科、英語科の分析を通して、引き続きの課題として挙げられるものとして「自分の考えをまとめて書く」があります。

単に「自分の考えをまとめて書く」だけでなく、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えを書く」問題や、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えを書く」問題、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」問題などがありました。

先を見通すことが困難な今日において、「自ら問題を見つけ、議論を通じ修正していく力」が必要になります。そして、「自分の考えを持つ」ためには、各教科における基礎・基本となる内容をしっかりと理解しておくことが大切です。

【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			○	22.2	-4.5	7.4
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			○	49.3	-6.9	7.9
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			○	64.5	-5.7	12.8

【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			○	64.8	-0.9	2.2
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			○	69.4	-4.1	9.4
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる			○	46.8	-4.4	21.0

【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる			○	48.0	-7.5	3.2
2 (4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係に基づき面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる			○	25.4	4.6	5.2
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる			○	48.5	-8.2	5.9
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる			○	49.5	-6.7	15.0

【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
6 (2)	はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる			○	41.6	-17.2	9.3
6 (3)	はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる			○	26.9	-14.0	25.3
7 (2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			○	18.1	-15.5	21.9
8 (3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			○	38.7	-4.1	13.1
9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			○	21.1	-11.0	24.3

【中学校 英語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる			○	18.1	-1.4	23.7
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる			○	5.3	-2.1	16.8

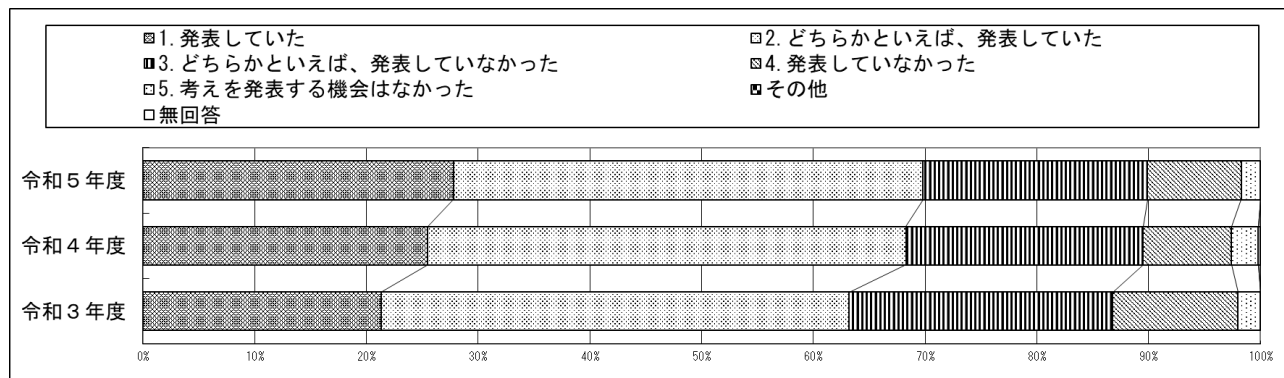
「考え」を発信する場や機会をもつために

上記の結果は、小学校・中学校における国語科と算数科・数学科・英語科の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「自分の考えを整理し、表現する」ことが大事です。全国的にも記述問題の正答率は低く、寒川町の児童・生徒も記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということが言えます。しかし、国語においては、小学校・中学校ともに無解答率が低く、自分の考えを記述することができる児童・生徒が見られます。自分の考えを書く手助けとしては、語彙数を増やすことや適切な言葉を使って表現する習慣が考えられます。語彙を増やすために、「言葉を使いたくなる状況」を授業の中で設定し、一つひとつ新しい言葉を足してあげていくということが重要です。また、日頃から繰り返し指導し、少しずつ「できる」という経験を積み重ねることで身につくことから、長い時間をかけて繰り返し行うことが大事です。

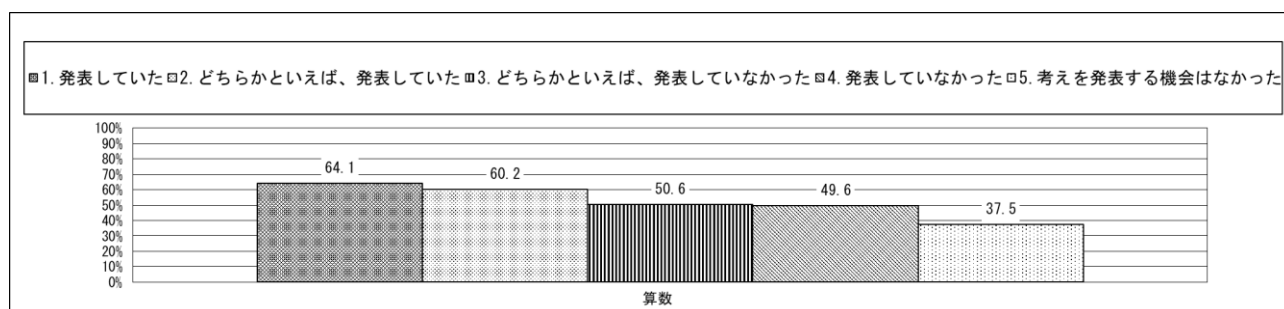
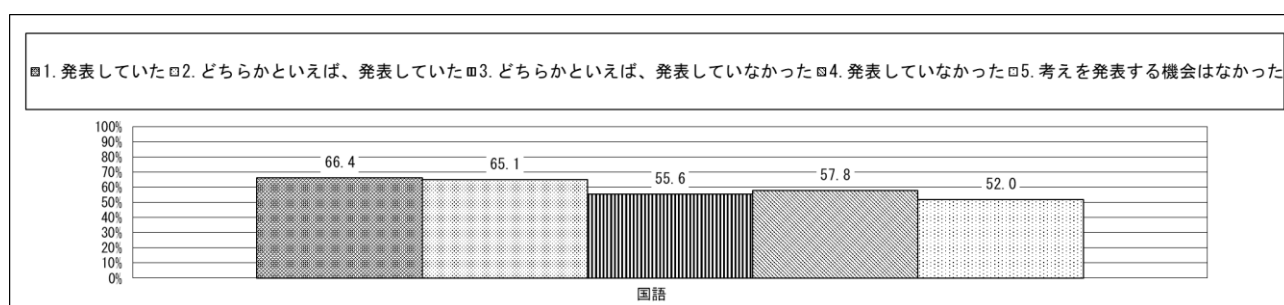
次の【児童質問紙(32)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか】及び中学校【生徒質問紙(36)「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか】では、小学校、中学校共に年々増加の傾向が見られます。また、クロス集計からも、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表していた児童・生徒の方が、高い得点をとる傾向があります。このことから、授業の中で自分の考えをまとめ、伝わりやすく工夫して書き、相手に伝える活動が位置づけられていることが分かります。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	発表していた(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.8	42.0	20.1	8.4	1.7			69.8		0.0	0.0
令和4年度	25.5	42.8	21.2	7.9	2.4			68.3		0.0	0.2
令和3年度	21.3	41.9	23.6	11.2	2.0			63.2		0.0	0.0

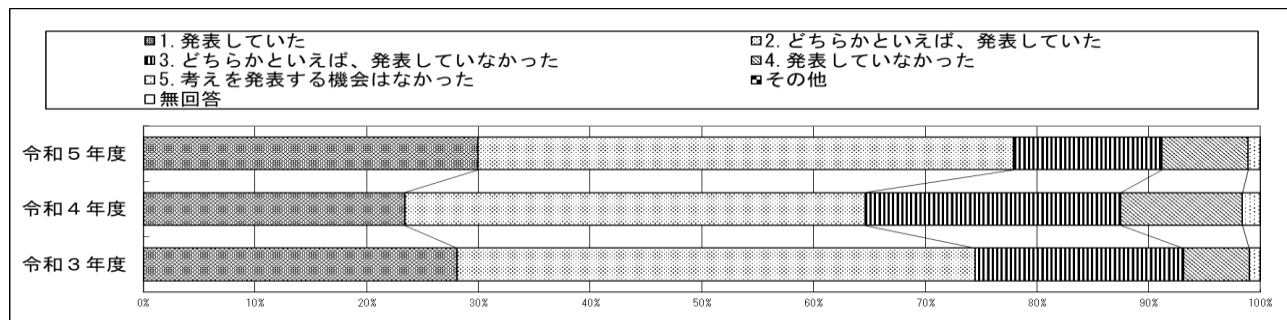


選択肢	児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)
1 発表していた	113	27.8	66.4	64.1
2 どちらかといえば、発表していた	170	41.9	65.1	60.2
3 どちらかといえば、発表していなかった	82	20.2	55.6	50.6
4 発表していなかった	34	8.4	57.8	49.6
5 考えを発表する機会はなかった	7	1.7	52.0	37.5
その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—
無回答	0	0.0	—	—

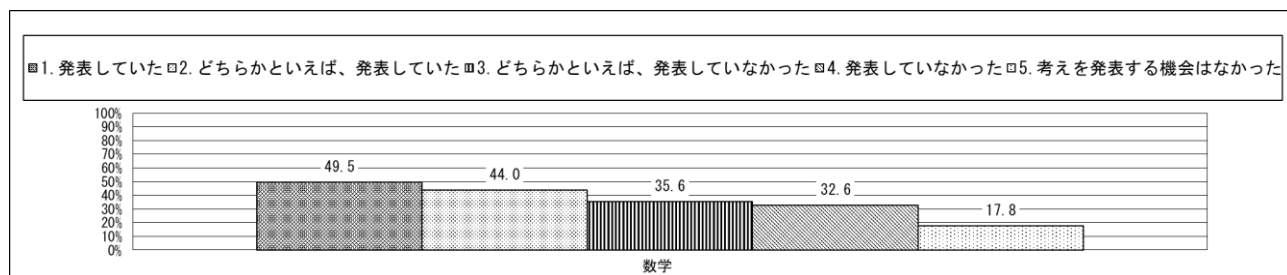
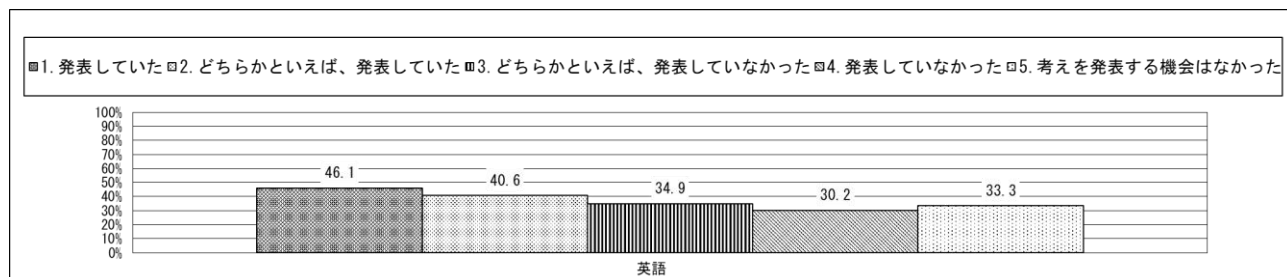
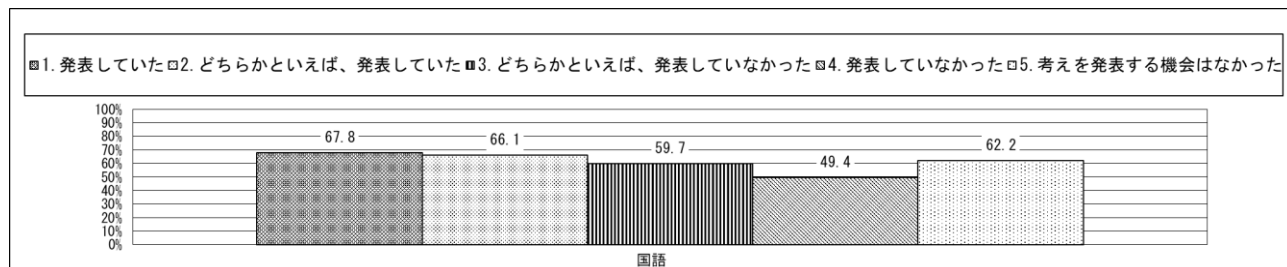


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	発表していた(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	30.0	48.0	13.3	7.7	1.1			78.0		0.0	0.0
令和4年度	23.4	41.2	22.9	10.9	1.6			64.6		0.0	0.0
令和3年度	28.1	46.4	18.6	5.9	1.0			74.5		0.0	0.0



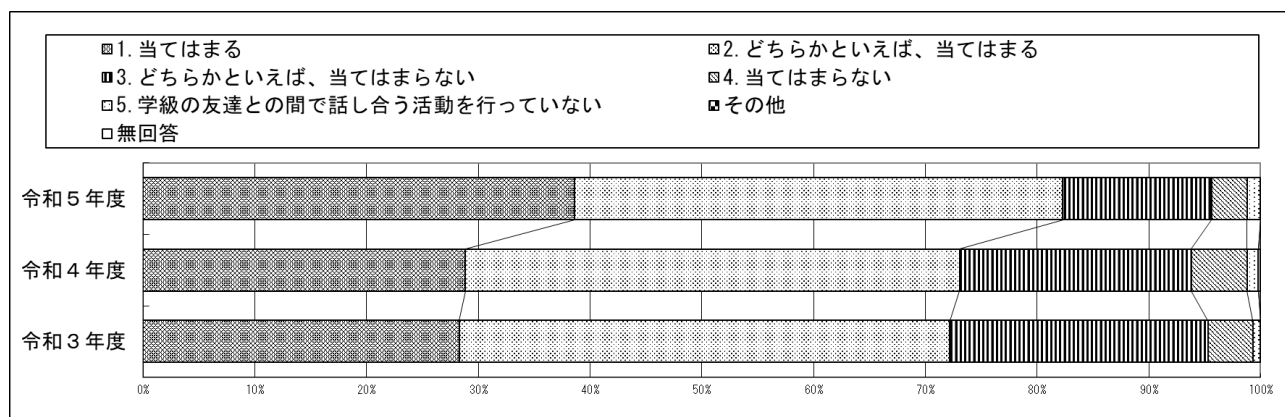
選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1 発表していた	113	30.3	67.8	49.5	46.1
2 どちらかといえば、発表していた	178	47.7	66.1	44.0	40.6
3 どちらかといえば、発表していなかった	50	13.4	59.7	35.6	34.9
4 発表していなかった	29	7.8	49.4	32.6	30.2
5 考えを発表する機会がなかった	3	0.8	62.2	17.8	33.3
その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—	—
無回答	0	0.0	—	—	—



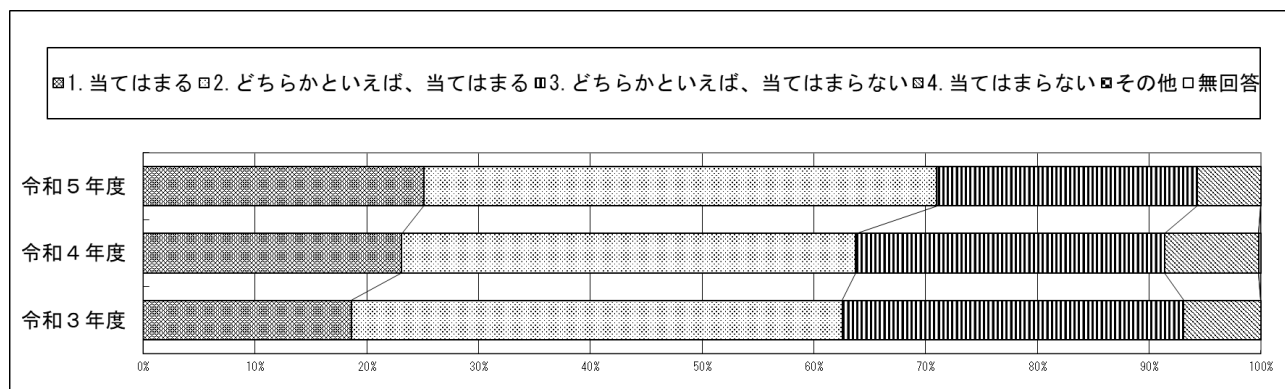
学習指導要領解説 総則編では、「言語能力を支える語彙の段階的な獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」とあります。寒川町の小・中学校では、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるところです。引き続きこのような取組の目的を教師と児童・生徒で共有し、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現することの大切さを実感できる学習を充実させていくことが大切です。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	38.6	43.7	13.3	3.2	1.2			82.3		0.0	0.0
令和4年度	28.8	44.2	20.7	5.0	1.0			73.0		0.0	0.2
令和3年度	28.3	43.9	23.1	4.0	0.7			72.2		0.0	0.0

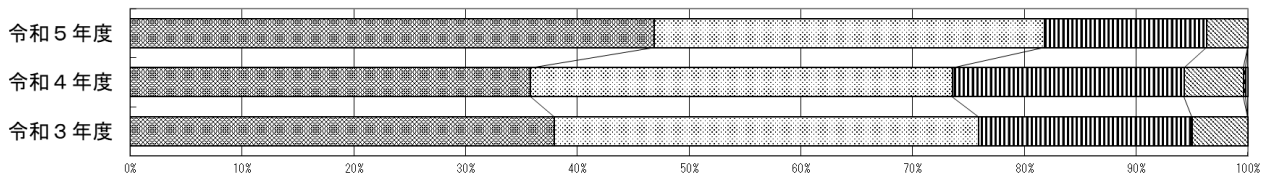


質問番号	質問事項										
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	25.1	45.9	23.3	5.7				71.0		0.0	0.0
令和4年度	23.1	40.6	27.6	8.4				63.7		0.0	0.2
令和3年度	18.6	43.9	30.5	6.9				62.5		0.0	0.0



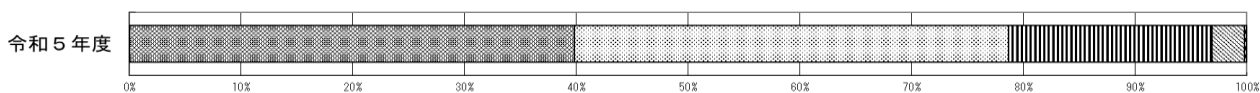
質問番号	質問事項										
(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	46.9	34.9	14.5	3.7				81.8		0.0	0.0
令和4年度	35.8	37.7	20.7	5.3				73.5		0.2	0.2
令和3年度	38.0	38.0	19.1	5.0				76.0		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



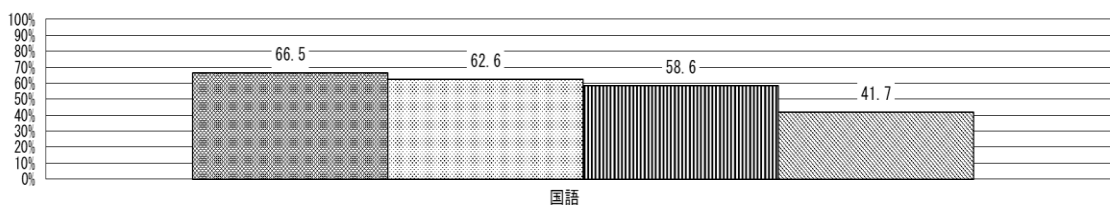
質問番号	質問事項										
(38)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	39.8	38.8	18.2	2.9				78.6		0.2	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答

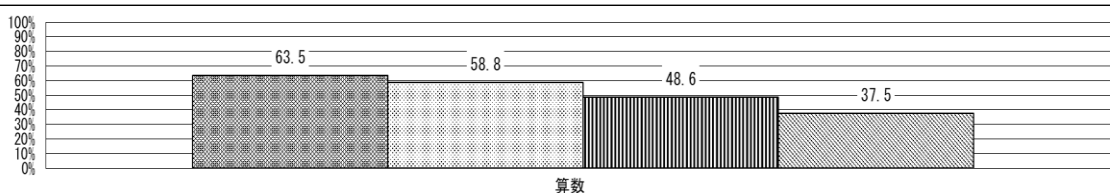


選択肢	児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	算数 (16問)
1 当てはまる	162	39.9	66.5	63.5
2 どちらかといえば、当てはまる	157	38.7	62.6	58.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	74	18.2	58.6	48.6
4 当てはまらない	12	3.0	41.7	37.5
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)			—	—
無回答			—	—

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない

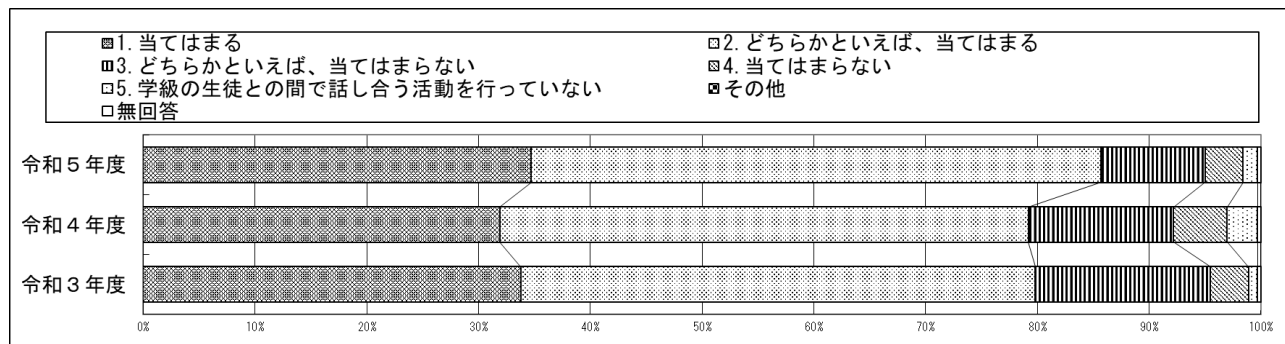


☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない

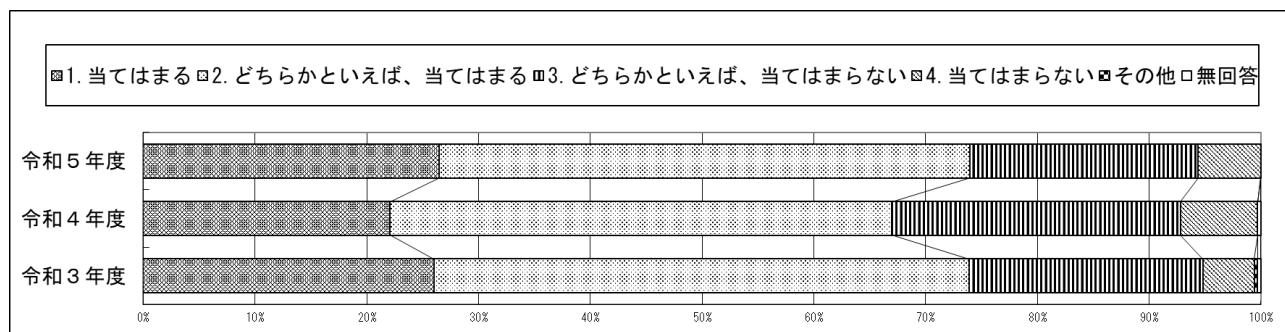


【中学校生徒質問紙】

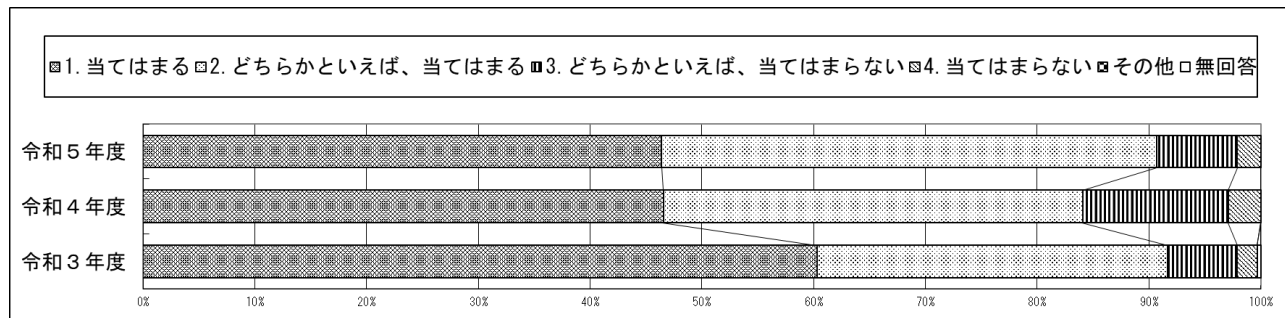
質問番号	質問事項										
(40)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	34.7	50.9	9.3	3.4	1.3			85.6		0.0	0.3
令和4年度	31.9	47.3	13.0	4.8	2.7			79.2		0.0	0.3
令和3年度	33.8	46.1	15.7	3.4	0.8			79.9		0.0	0.3



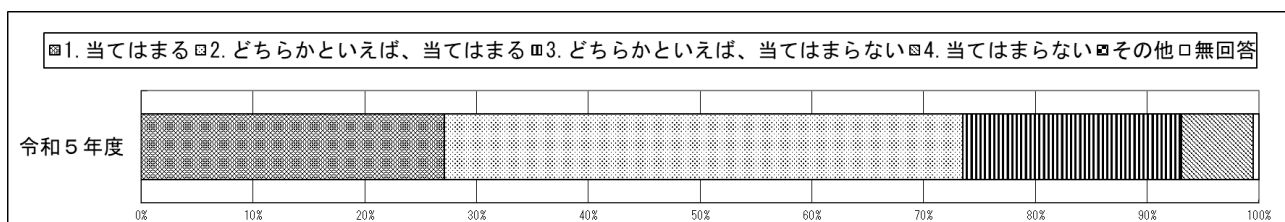
質問番号	質問事項										
(45)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	26.5	47.5	20.4	5.6				74.0		0.0	0.0
令和4年度	22.1	44.9	25.8	6.9				67.0		0.0	0.3
令和3年度	26.0	47.9	20.9	4.6				73.9		0.3	0.3



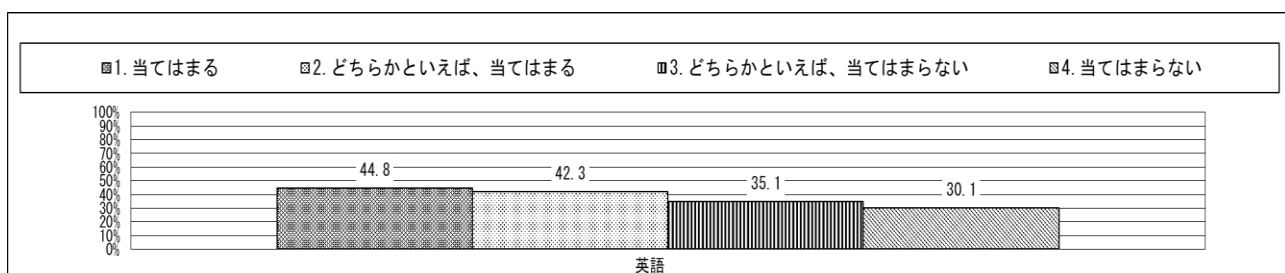
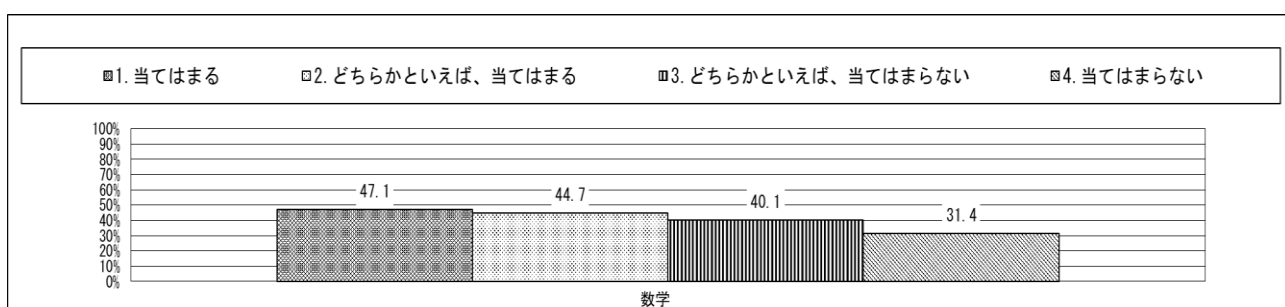
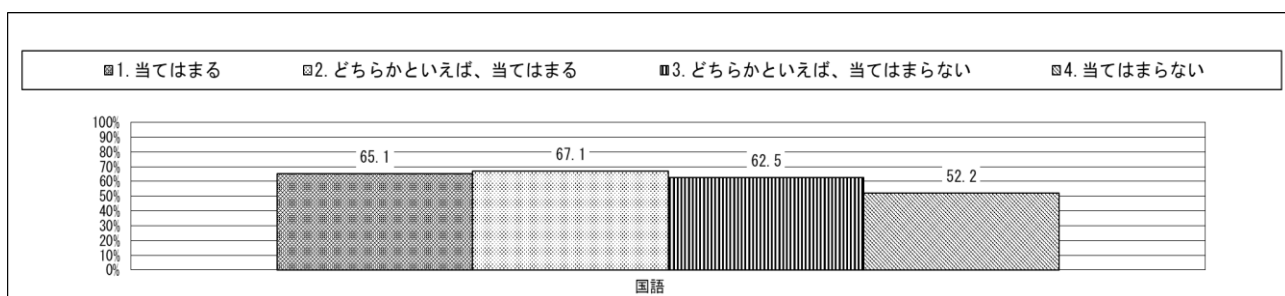
質問番号	質問事項										
(46)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	46.4	44.3	7.2	2.1				90.7		0.0	0.0
令和4年度	46.5	37.5	13.0	2.9				84.0		0.0	0.0
令和3年度	60.3	31.4	6.2	1.8				91.7		0.0	0.3



質問番号	質問事項										
(42)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.1	46.4	19.6	6.4				73.5		0.0	0.5



選択肢	生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
			国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1 当てはまる	101	27.1	65.1	47.1	44.8
2 どちらかといえば、当てはまる	173	46.4	67.1	44.7	42.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	73	19.6	62.5	40.1	35.1
4 当てはまらない	24	6.4	52.2	31.4	30.1
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—	—
無回答	2	0.5	—	—	—



前述の児童・生徒質問紙の結果から、学級活動における話し合いが活発に行われている様子が伺えます。話し合い活動については、コロナ禍の影響があるため単純に過年度との比較はできませんが、今年度は話し合う活動を通して、自分の考えが深めたり広がったりしている児童・生徒が増えていることが伺えます。

また、【児童質問紙（４２）・生徒質問紙（４６）「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」】で示されているように、特別の教科 道徳の授業において、常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えるために、「考え、議論する道徳」の授業が展開されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れられている様子が伝わってきます。学習指導要領に沿って取り組んでいる、授業改善の視点の一つの表れである「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

また、【児童質問紙（３８）・生徒質問紙（４２）「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」】では約７０％の児童・生徒が肯定的に回答しています。算数科・数学科は生活科や理科と繋がりがあり、国語科での話し合いや考え方については、全ての教科に生かすことができます。授業の中で、他の教科との関連や繋がりを意識させることが重要です。

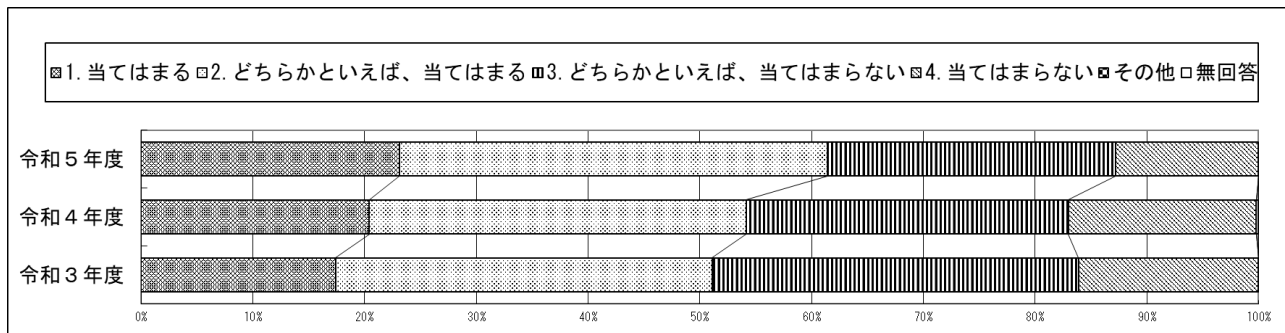
今年度は「資料から読み取った情報を整理し、自分の考えをまとめる」問題が多くありました。今後は、「友達との会話や文章の中の新たな考えを受けて、自分がどう考えを受け止め、調整し、枠を広げていくか」という学びがさらに必要になってきます。教師だけでなく児童・生徒にも「主体的・対話的で深い学び」という学習スタイルが少しずつ馴染み、浸透してきている姿が見えてきている中、多様な手法を検討しながら、様々な教科、時間、場面を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を推進していく必要があります。

また、以下に、国語科に関して【児童質問紙（４３）・生徒質問紙（４７）「国語の勉強は好きだ」】、算数（数学）科に関して【児童質問紙（５１）・生徒質問紙（５５）「算数（数学）の勉強は好きだ」】英語科に関して【生徒質問紙（５９）「英語の勉強は好きだ」】についての結果を示しています。

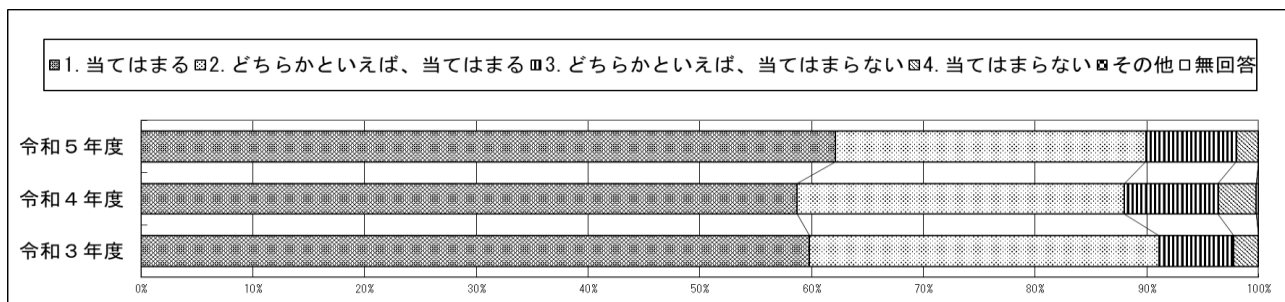
〔国語に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項										
(43)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	23.1	38.3	25.8	12.8				61.4		0.0	0.0
令和4年度	20.4	33.7	28.8	16.8				54.1		0.0	0.2
令和3年度	17.4	33.7	32.8	16.1				51.1		0.0	0.0

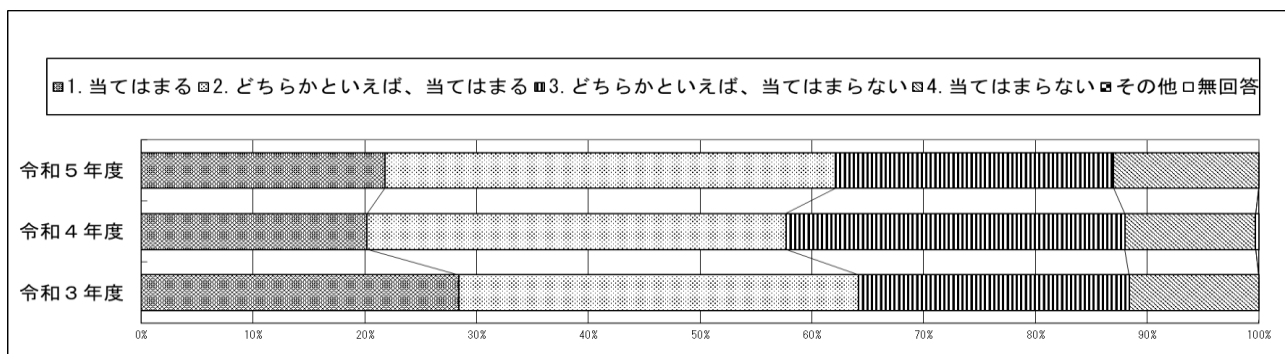


質問番号	質問事項										
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	62.2	27.8	8.1	2.0				90.0		0.0	0.0
令和4年度	58.7	29.3	8.4	3.4				88.0		0.0	0.2
令和3年度	59.8	31.3	6.7	2.2				91.1		0.0	0.0

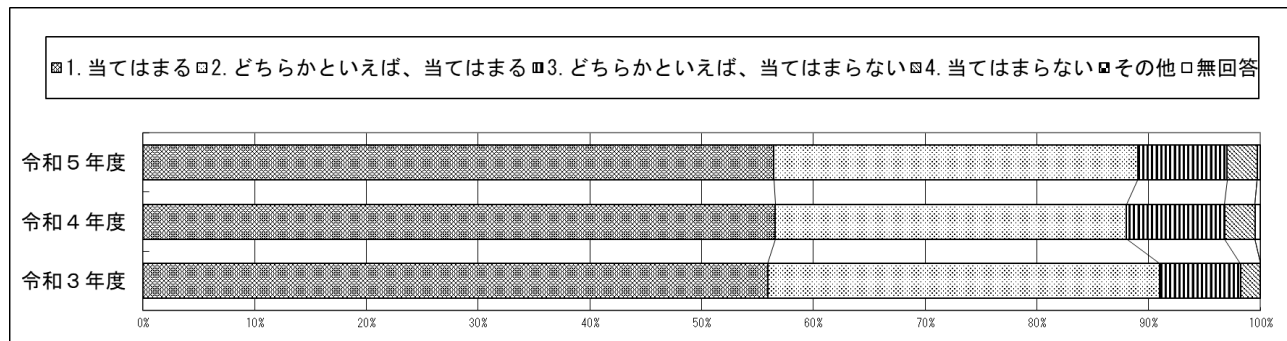


【中学校】

質問番号	質問事項										
(47)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	21.8	40.3	24.9	13.0				62.1		0.0	0.0
令和4年度	20.2	37.5	30.3	11.7				57.7		0.0	0.3
令和3年度	28.4	35.8	24.2	11.6				64.2		0.0	0.0



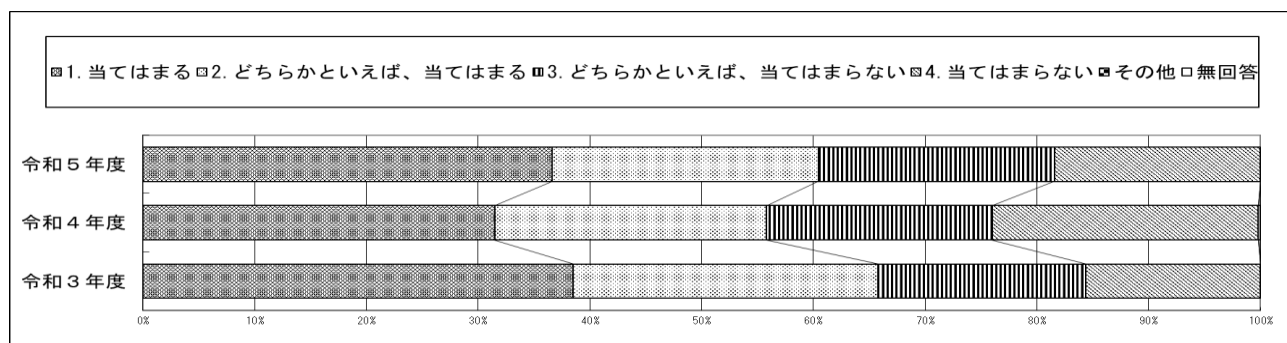
質問番号	質問事項										
(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	56.5	32.6	8.0	2.7				89.1		0.0	0.3
令和4年度	56.6	31.4	8.8	2.7				88.0		0.0	0.5
令和3年度	55.9	35.1	7.2	1.8				91.0		0.0	0.0



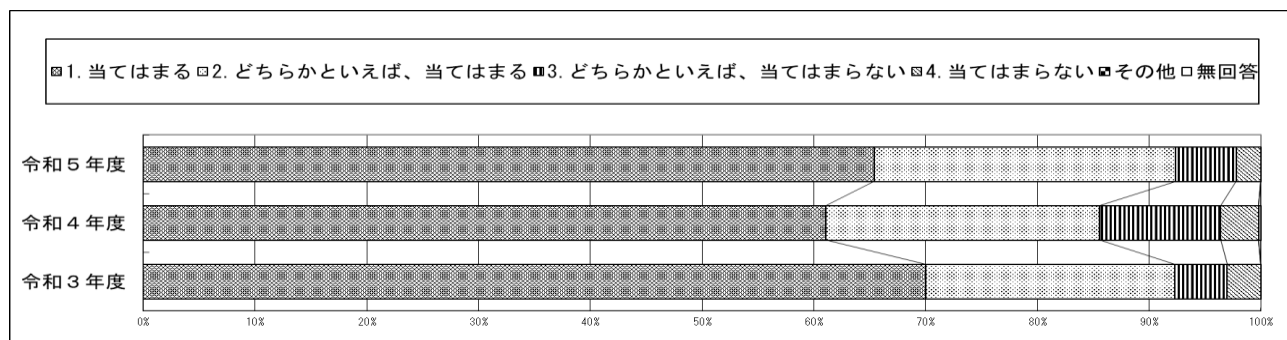
〔算数（数学）に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項										
(51)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	36.6	23.8	21.1	18.4				60.4		0.0	0.0
令和4年度	31.5	24.3	20.2	23.8				55.8		0.0	0.2
令和3年度	38.5	27.3	18.6	15.6				65.8		0.0	0.0

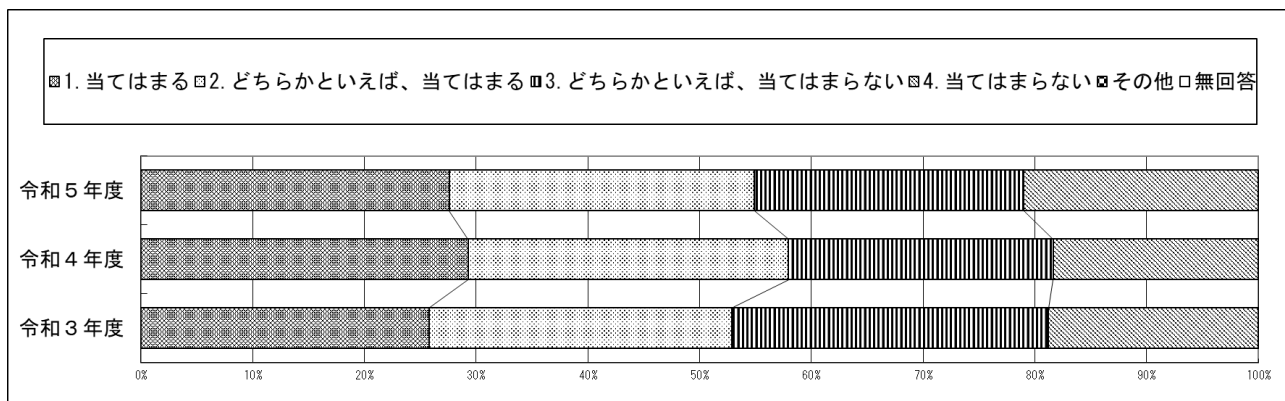


質問番号	質問事項										
(54)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	65.4	27.0	5.4	2.2				92.4		0.0	0.0
令和4年度	61.1	24.5	10.8	3.4				85.6		0.0	0.2
令和3年度	70.0	22.3	4.7	3.0				92.3		0.0	0.0

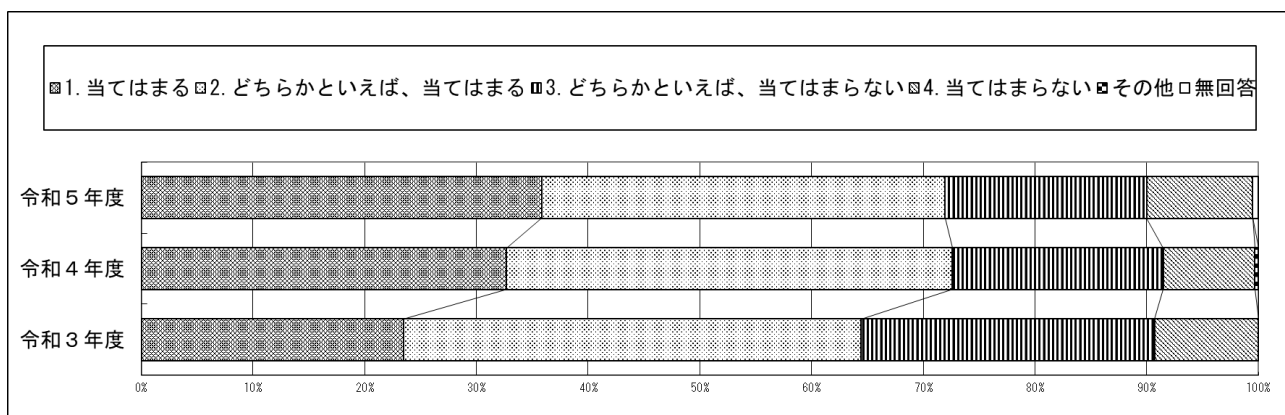


【中学校】

質問番号	質問事項										
(55)	数学の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.6	27.3	24.1	21.0				54.9		0.0	0.0
令和4年度	29.3	28.7	23.7	18.4				58.0		0.0	0.0
令和3年度	25.8	27.1	28.4	18.8				52.9		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(58)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	35.8	36.1	18.0	9.5				71.9		0.0	0.5
令和4年度	32.7	39.9	18.9	8.2				72.6		0.3	0.0
令和3年度	23.5	41.0	26.3	9.3				64.5		0.0	0.0

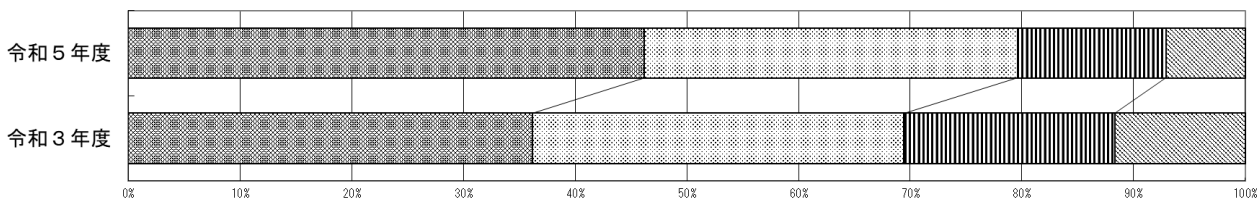


〔英語に関する質問紙調査〕

【小学校】

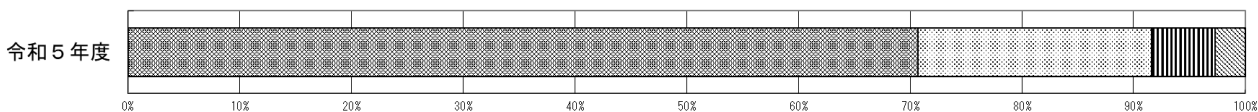
質問番号	質問事項										
(55)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	46.2	33.4	13.3	7.1				79.6		0.0	0.0
令和3年度	36.2	33.3	18.9	11.7				69.5		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



質問番号	質問事項										
(56)	英語の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	70.8	20.9	5.7	2.7				91.7		0.0	0.0

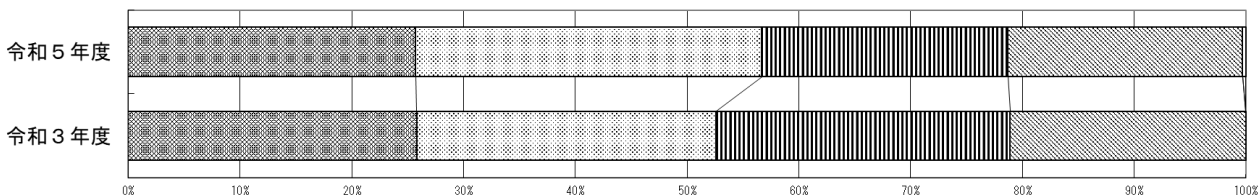
☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



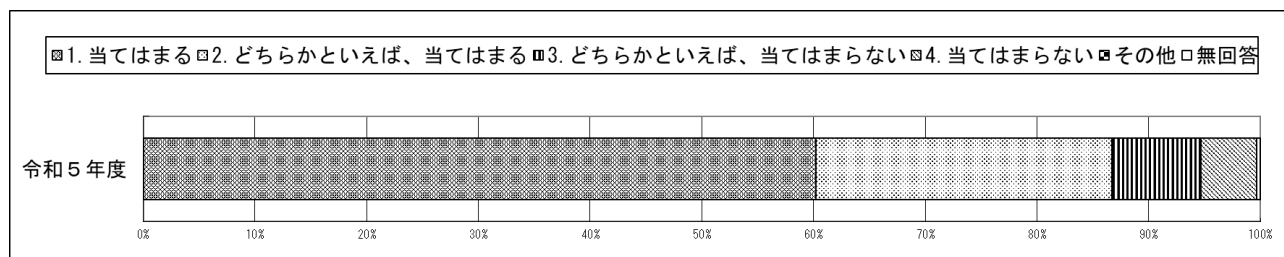
【中学校】

質問番号	質問事項										
(59)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	25.7	31.0	22.0	21.0				56.7		0.0	0.3
令和3年度	25.8	26.8	26.3	21.1				52.6		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



質問番号	質問事項										
(62)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	60.2	26.5	8.0	5.0				86.7		0.0	0.3



小学校・中学校共に約半数の児童・生徒が教科の勉強が好きであり、また、多くの児童・生徒がその勉強が将来社会に出たときに役に立つと認識していることが結果から伺えます。これが児童・生徒の学びに向かう力の大きな支えになっていると考えられます。英語については、全国平均同様、将来社会に出たときに役に立つと感じている児童・生徒の回答が見られます。英語を学ぶことにより、世界中の人とコミュニケーションをとることができたり、将来の自分の仕事の際に役立ったり、自分の自信になったりと、メリットが多くあります。

また、英語学習の大切なポイントは、英語を好きになることから始まることです。英語の世界に好きなことをみつけて、学習のモチベーションを高めていくことが必要です。英語の単語や文法を覚えることも大事ですが、それ以上に英語でのコミュニケーションを楽しむことで、英語の学習効果が高まります。

寒川町の小・中学校の校内研究では、児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT機器を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く・話すという活動は、学習指導要領における3つの柱の一つである「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育てていくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を進めていき、今後も「自分の考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことによって、子どもたちが自分の考えをもつことができるようになると思われまます。

また、今年度の課題として、小学校・中学校ともに「読解力」が挙げられます。図表も含めて内容をしっかり理解し、筆者のねらいを押さえた上で、文章に線を引いたり段落に番号をふったりと大事な部分を意識できるような工夫が必要です。また、内容を理解しなければ、自分の意見を考えられず、書くこともできないため、読み解いた後に要約する、自分の意見を補強する事例を提示して意見を付け加えるといった、読む力と書く力をセットにした取組を行っていくことが必要です。この部分は、学習評価の3つの観点の一つ「主

体的に学習に取り組む態度」の中の「自己の学びを調整する力」に繋がり、今後ICT機器の活用も含め、意見を共有し、さらにそこから自分の考えの枠を広げ、「より深めた考えをしっかりとまとめ、書く」という力を育成していくことが大切です。そして、活用の力をつけるためには、それを支える基礎基本をしっかりと築く必要があります。自分の考えをまとめ、他者と共有し、さらにもう一度自分の考えに戻り、自分自身の考えの変容を感じる中で、そこに出てくる基本的な内容をしっかりと押さえる。このような授業を展開していく事で、今年度の課題の解決、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうと考えます。

「子どもたちにどんな力をつけさせたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むこと、そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取組を継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。

3 今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇家庭で育まれていること、これからも育てほしいこと

◇学校で育まれていること、これからも育ていくこと

◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと

これからも育ていきたいこと

◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を…

家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇保護者の支えがあって、育まれてきたこと

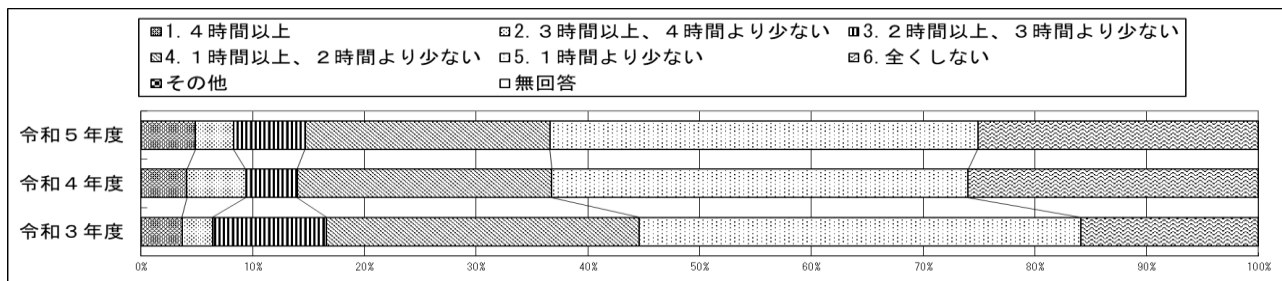
ここ数年の経年変化のデータにより、家庭における基本的な生活習慣においては、保護者の家庭での協力によって、規則正しい生活を送っている児童・生徒が多い傾向が見られます。児童・生徒のよりよい成長につなげるためには、家庭と地域の協力が必要となります。これまで家庭で取り組んできた積み重ねが着実に成果として表れています。

しかしながら、土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間の取組において、1時間未満の児童については約60%、生徒については約40%と低い結果が見られました。

また、地域との関わりについて、【児童質問紙（25）、生徒質問紙（29）「今住んでいる地域の行事に参加している」】では、コロナ禍の影響も受け、こちらも低い結果が見られました。この部分については、学校・学級と地域が相互に課題を認識、共にその解決に取り組んでいくことが必要です。

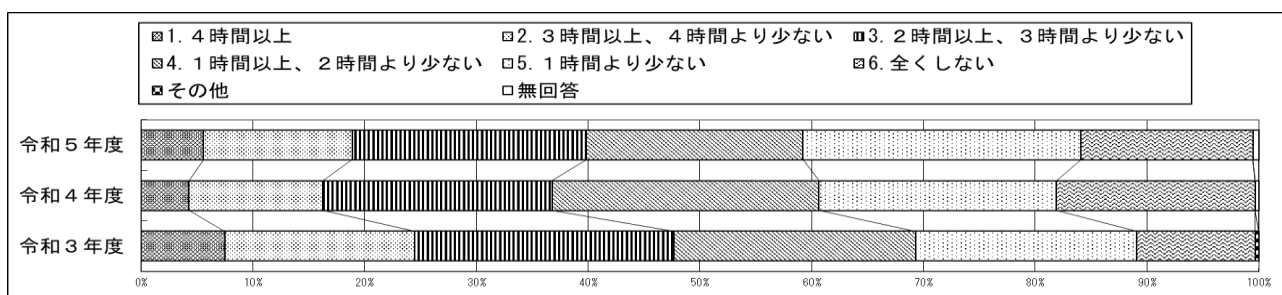
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	1時間未満(5+6)	9	その他	無回答
令和5年度	4.9	3.4	6.4	21.9	38.3	25.1		63.4		0.0	0.0
令和4年度	4.1	5.3	4.6	22.8	37.3	26.0		63.3		0.0	0.0
令和3年度	3.7	2.7	10.2	28.0	39.5	15.9		55.4		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

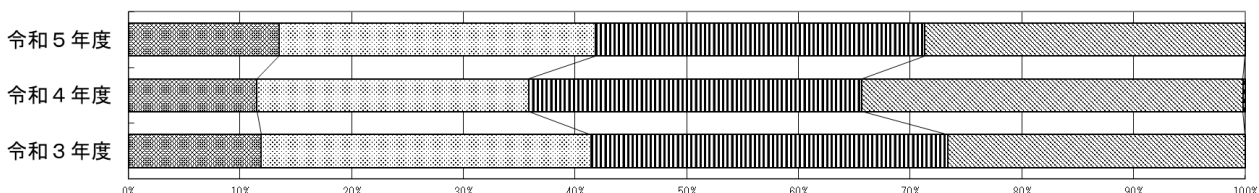
質問番号	質問事項										
(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	1時間未満(5+6)	9	その他	無回答
令和5年度	5.6	13.3	21.0	19.4	24.9	15.4		40.3		0.0	0.5
令和4年度	4.3	12.0	20.5	23.9	21.3	17.8		39.1		0.0	0.3
令和3年度	7.5	17.0	23.2	21.6	19.8	10.6		30.4		0.3	0.0



【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(25)	今住んでいる地域の行事に参加していますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	13.5	28.3	29.5	28.7				41.8		0.0	0.0
令和4年度	11.5	24.3	29.8	34.1				35.8		0.2	0.0
令和3年度	11.9	29.5	32.0	26.6				41.4		0.0	0.0

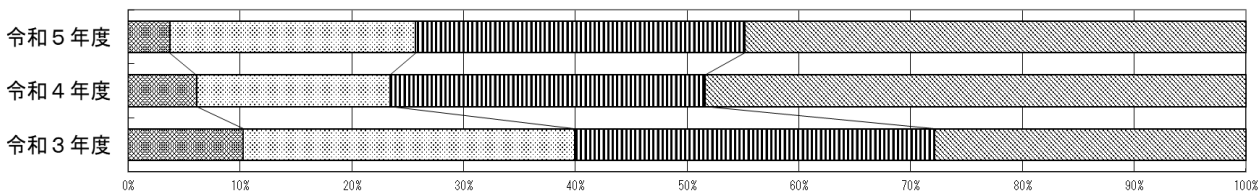
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	3.7	22.0	29.4	44.8				25.7		0.0	0.0
令和4年度	6.1	17.3	28.2	48.4				23.4		0.0	0.0
令和3年度	10.3	29.6	32.2	27.8				39.9		0.0	0.0

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



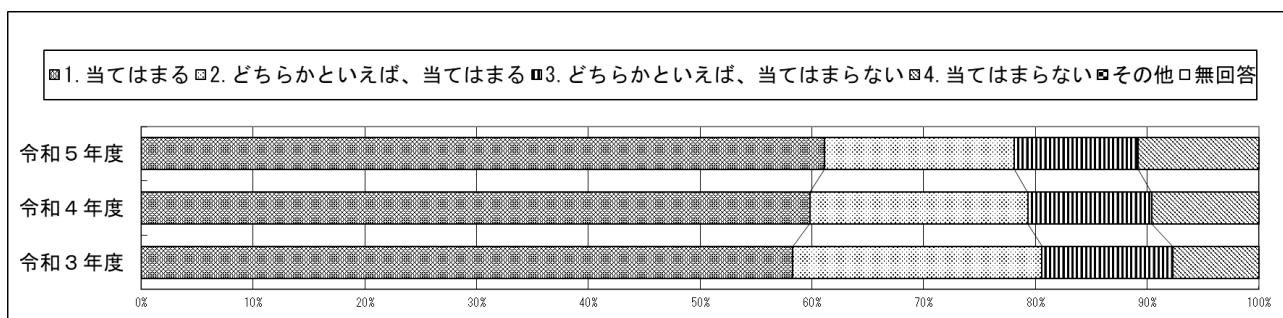
◇家庭での会話で育んでいきたいこと

【児童・生徒質問紙(7)「将来の夢や目標をもっている」】では、例年とほぼ変わらない割合の傾向が見られ、「どちらかといえば当てはまらない」又は「当てはまらない」と答えている児童・生徒がいます。近年の社会は、グローバル化、情報化、少子化、高齢化等を背景に、社会構造の大きな変動期を迎えており、変化のスピードもこれまでになく速くなっています。変化の激しいこれからの社会において、一人ひとりの子どもたちがそれぞれの可能性を伸ばし、自立した個人として心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要です。家庭での会話を通して、子どもが自分に自信をもち、物事に対して前向きな気持ちで取り組むことができるよう、他の子どもと比較するのではなく、その子が持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自尊心、自己肯定感を高められるような関わり方の継続が大切です。さらに、話す機会を確保することによって、現在の子どもの様子や状況について理解することができるとともに、「考えて、発信す

る」という場が必然的に生じます。家庭においても、話す機会と時間を確保して、児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、話す機会を大切にしてほしいと思います。

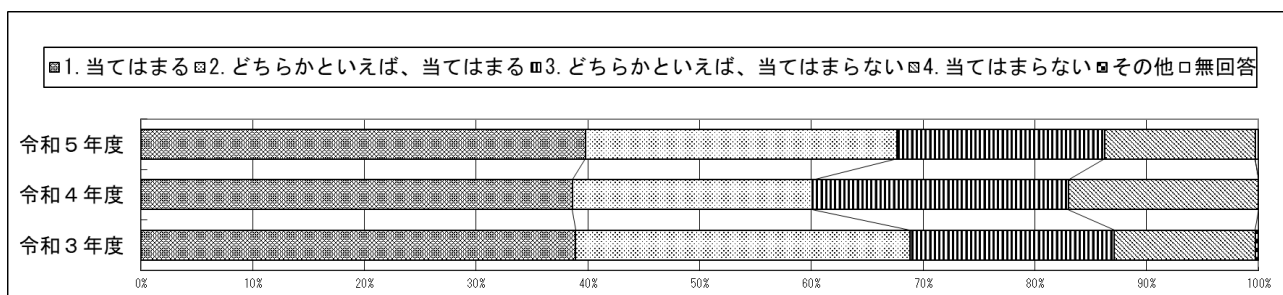
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(7)	将来の夢や目標を持っていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	61.2	17.0	11.1	10.8				78.2		0.0	0.0
令和4年度	59.9	19.5	11.1	9.6				79.4		0.0	0.0
令和3年度	58.3	22.3	11.7	7.7				80.6		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(7)	将来の夢や目標を持っていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	39.8	27.9	18.6	13.5				67.7		0.0	0.3
令和4年度	38.6	21.5	22.9	17.0				60.1		0.0	0.0
令和3年度	38.9	29.9	18.3	12.6				68.8		0.3	0.0



学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

◇先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

今年度の質問紙調査結果や日頃の小・中学校の様子から児童・生徒と先生の信頼関係の高さが見られます。これは寒川町の強みとして、今後も大切にしていきたいところです。

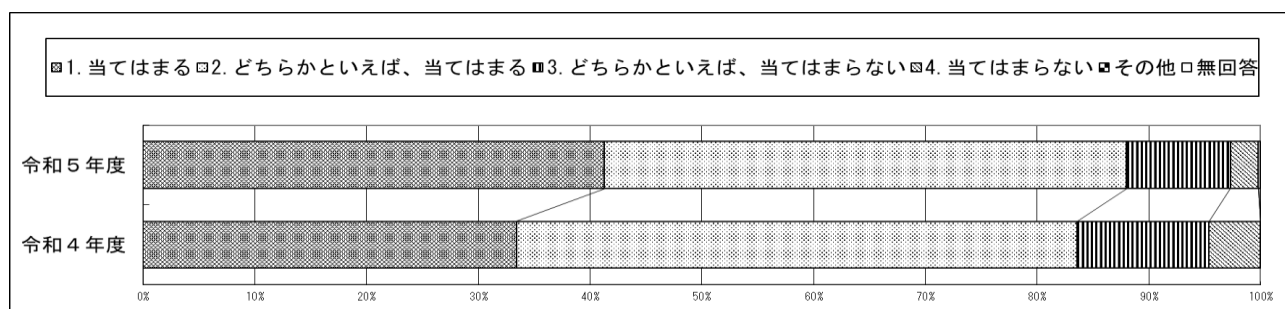
【児童生徒質問紙(5)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」からは、多くの児童・生徒が先生から認められていると感じていることがわかります。また、【児童生徒質問用紙(10)】「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、小学校・中学校ともに全国平均よりも多くの児童・生徒が「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と答えています。このような信頼関係が素地となって、学級・学校での文化が育まれていきます。児童・生徒にとって、信頼関係がある中で、安心して学ぶことができるという基盤があることは重要なことです。そのような環境の中で、難しいことでも挑戦しようという気持ちが育まれている様子が伺えます。

そして、日頃から児童・生徒に声をかけて励ましたり、わかりやすい説明となるように工夫したりする教師の陰ながらの努力があります。このような日々の積み重ねによって、あきらめないで取り組むという姿勢が育まれていくと考えられます。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿がまさに子どもの姿として表れています。

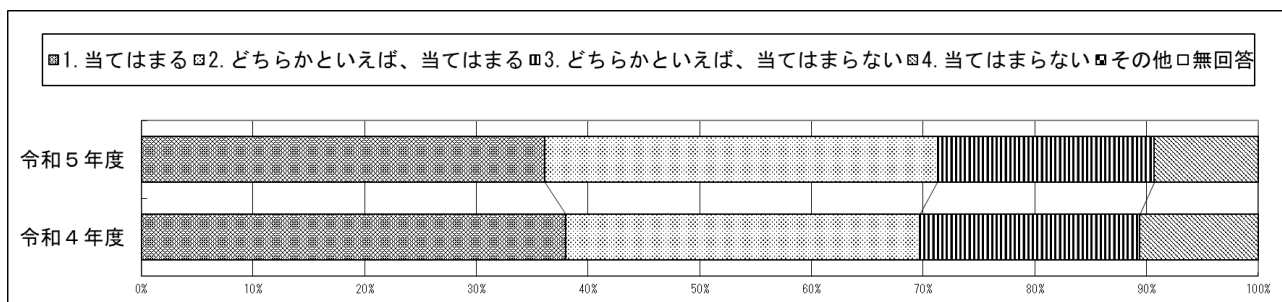
3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があつてこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	41.3	46.7	9.3	2.5				88.0		0.0	0.2
令和4年度	33.4	50.2	11.8	4.6				83.6		0.0	0.0

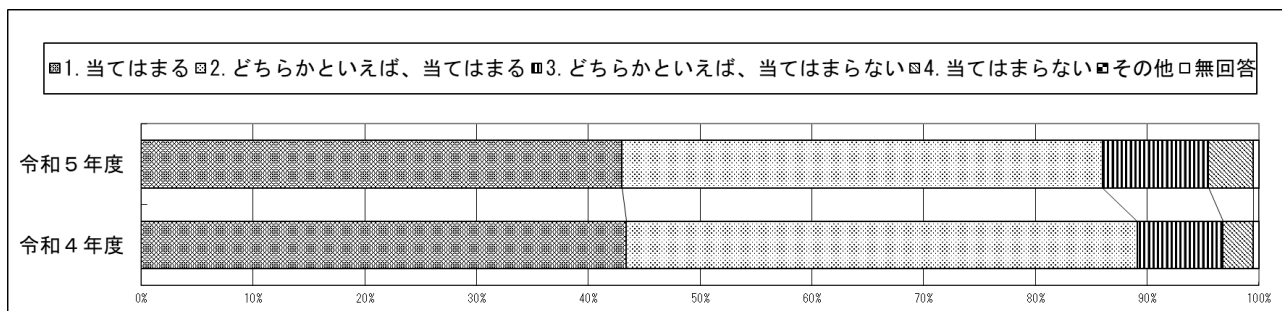


質問番号	質問事項										
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	36.1	35.1	19.4	9.3				71.2		0.0	0.0
令和4年度	38.0	31.7	19.7	10.6				69.7		0.0	0.0

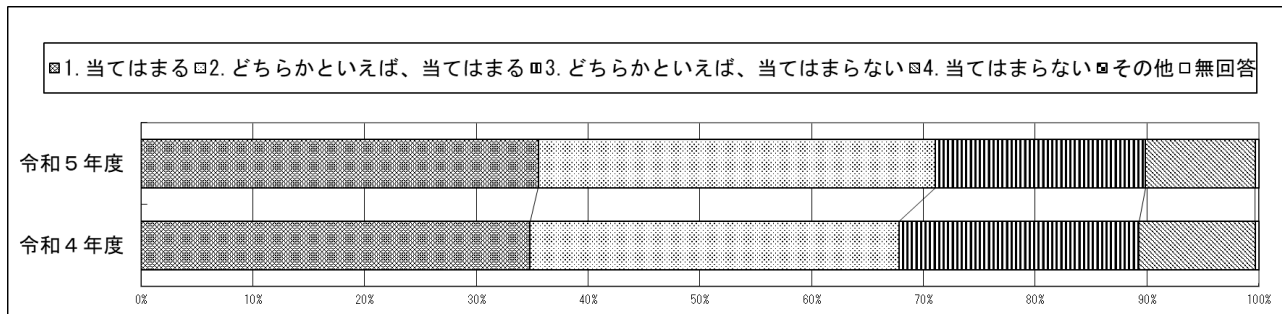


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	43.0	43.0	9.5	4.0				86.0		0.0	0.5
令和4年度	43.4	45.7	7.7	2.7				89.1		0.0	0.5



質問番号	質問事項										
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	35.5	35.5	18.8	9.8				71.0		0.0	0.3
令和4年度	34.8	33.0	21.5	10.4				67.8		0.0	0.3



主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取組が児童・生徒質問紙調査の結果に表れています。

寒川町の各小・中学校では、校内研究において児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT機器を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。また、さむかわ学びっ子推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、互いの学校に持ち帰って参考としながら、さらに研究を深めています。町内全小・中学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組むことができていることは、とても価値のあることです。教科調査の分析結果からは、各教科に共通して「情報を読み取る」「理由を記述する」「思考すること」「説明すること」に課題があることが見えてきました。「思考力・判断力・表現力等」を育んでいくためにも、「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より意識し、よりよい授業づくりに向けて取り組む必要があります。

今後も、校内研究や学びっ子育成推進事業を柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組をさらに推進して、子どもたちの資質・能力を育むとともに、教師の授業力を向上させていきたいと考えています。

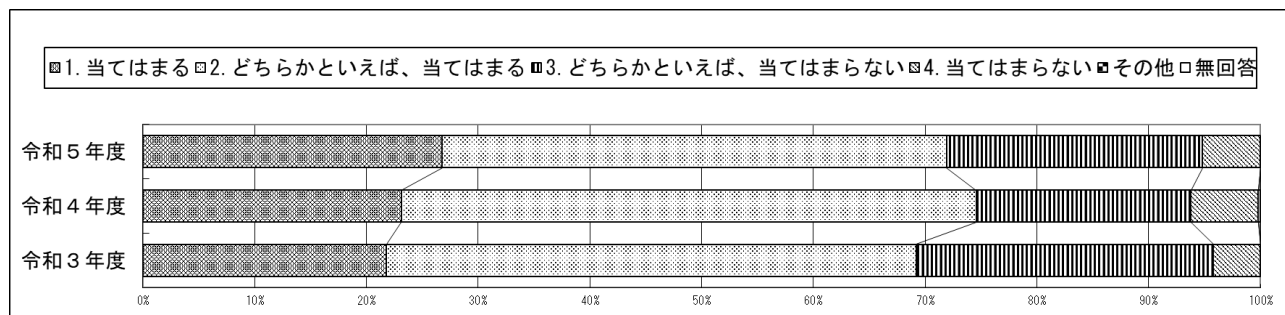
教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・

【児童質問紙(37)・生徒質問項目(41)「学習した内容について、わかった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか】では、「授業で学んだことを、次の学習に生かすことができる」、つまり学校での学びを振り返り、繋げることで、他の教科と関連づけたりしながら、活用していく姿がイメージできます。

今日、先を見通すことが難しい時代を生き抜くために、子どもたちには、「自分で課題を見つけ、対話をしたり新しい情報を取り入れたりする中で調整していく力」が必要となります。また、これから先、学習したことをどのように活用できるかが大事となってきます。学校では、単に知識を獲得するのではなく、学んだことを活用したり考えを伝え合ったり、さらにそこから自分の考えをまとめ、調整する学習を充実させ、「生きて働く知識」となるように努め、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。家庭や地域でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい言葉かけを行い、安心して様々な物事にチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

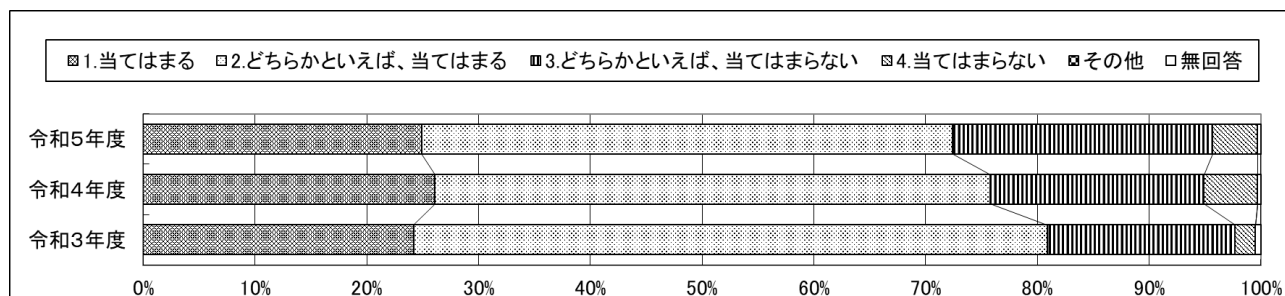
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(37)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	26.8	45.2	22.9	5.2				72.0		0.0	0.0
令和4年度	23.1	51.4	19.2	6.0				74.5		0.0	0.2
令和3年度	21.8	47.4	26.6	4.2				69.2		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(41)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	24.9	47.5	23.3	4.0				72.4		0.0	0.3
令和4年度	26.1	49.7	19.1	4.8				75.8		0.0	0.3
令和3年度	24.2	56.7	16.8	1.8				80.9		0.0	0.5



以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、寒川の子どもたちの資質・能力が少しずつですが、着実に積み上げられてきていることがわかります。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからは同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組むことが必要です。

今後も、それぞれの立場で適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していきたいと思います。